

ハイパフォーマンスな
プロダクションプリントと
高品位なカラー印刷を両立する
Fieriの機能&技術を解説



ハイパフォーマンスな プロダクションプリントを支える Fiery サーバー搭載テクノロジー

Fiery サーバーは、高いRIP処理能力と多様な印刷機能を備え、プロダクションプリントビジネスを加速させる能力を発揮します。高速印刷が可能なデジタルプリンターの生産性を落とさず、大量のジョブを効率的に処理する高いパフォーマンスを発揮。本ガイドでは、プロダクションプリントに欠かせない機能について紹介します。

Fiery システムがFS150/FS150Pro に進化

最新のFS150/150Proでは、Adobe PostScript 3 (CPSI3020[®])と、PDFをダイレクトに処理できるAdobe PDF Print Engine (バージョン3.0[®])を搭載。

さらに、CPUパフォーマンスを最大限に引き出し、ジョブを高速処理するSmartRIP 2テクノロジーと合わせて、複雑な内容を持つデータも正確に、高い生産性を保持したまま印刷できます。

※機種によって搭載されるバージョンが異なります。



POWERED BY
Adobe PDF Print Engine

OSにWindows 7 Professional FESを採用

FieryサーバーのベースオペレーションシステムにWindows 7 Professional FES[®] (64bit)を採用(一部機種にLinuxを採用)。最新サーバータイプのFS150/150Proでは、デジタルプリンターの処理状況や消耗品の残量をスピードメーター風に表示する「Fiery Ticker」を利用できます。

そして、ジョブ管理やサーバー設定などを行うCommand WorkStationがMac OS Xにも完全対応。プリンタードライバーもMac/WinともにUni Driverに対応しています。

※1. FES : For Embedded System



Fieryサーバーの代表的な基本機能

パフォーマンス

SmartRIP2 (P02)

ページ記述言語

Adobe PostScript 3 (P02)

Adobe PDF Print Engine (P02)

印刷方法

ダイレクトモバイル印刷 (P03)

送信順印刷 (P02)

カラーマネージメントと印刷品質

Image Enhance Visual Editor (P05)

色分解の組合せ (多色版の合成)

スポットカラーの追加 (P18)

(PANTONE Pastel&Neons/336 New Colors)

グラデーション品質の向上

(12bit スムーズシェーディング処理)

グレースケールコンポジットオーバープリント (P18)

キャリブレーション機能の改良 (P17)

RGB透明度の最適化

高品位イメージ画像

ハーフトーンシミュレーション (P24)

プロダクション機能

用紙カタログ (JDF準拠) (P14)

用紙種類の混合プレビュー (P15)

パッド印刷 (P15)

VDPラスタプレビューの向上

Fiery Remote Scan 6.0

サーバープリセット (P03)

仮想プリンター (P09)

管理者機能

Secure Erase 3.0

Fiery System Restore (P08)

ジョブエラーレポート

Fiery Setup Wizard

Fiery Ticker (P07)

Configureのユーザーインターフェイスが進化



Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition

グラフィックアーツパッケージ、プレミアムエディション

RIP 済みジョブにカラー調整が行える「Image Viewer 2.0」、紙白も反映した用紙シミュレーションやカスタマイズ可能な自動トラッピング、スポットカラーを利用した2色印刷マッピング、さらにデータチェック機能など、プリプレスに関連する機能を搭載。

そして、Hot Folders フィルターはCT/LW や Export PS、PDF2GO などの特殊ファイルをPSまたはPDFに変換。PDF/X フォーマットのプリフライトにも対応します。



Fiery Impose Fiery Compose

インポーズ／コンポーズ

スプール済みジョブをPDFファイルに変換して面付けを行う「Fiery Impose」。中綴じ印刷や反復印刷に必要な面付け機能を搭載し、バリエアブルデータもそのまま扱えます。

「Fiery Compose」では、コントローラー上のジョブとPC上のPDFを組み合わせたり、ジョブの章分けの定義や章ごとに用紙を変えた印刷、ページ間にタブ紙や色紙を挿入するなど、印刷物の価値を高める準備が行えます。



Fiery Color Profiler Suite

カラー・プロファイラー・スイート

Fiery Color Profiler Suiteでは、ICC標準に完全準拠したカラープロファイルを作成できます。また、カラープロファイルを検査、編集、および確認することもできます。最新バージョンでは、Fiery サーバー搭載デジタルプリンターのキャリブレーション設定と出力プロファイルをすばやく作成できる「高速プロファイル」機能や、最大5つのFiery 搭載デジタルプリンターのグループ全体で一貫したカラー出力を実現する「プリンターマッチ」機能が搭載されました。

Fiery サーバーのオプション機能

Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition

Image Viewer (P22)
自動プリフライト (P20)
Postflight (P21)
コントロールバー (P21)
自動トラッピング (P23)
Graphic Arts フィルター for Hot Folders (P10)
2色印刷マッピング (25)
用紙シミュレーションの白色点の編集 (P24)

Fiery Impose (P26)

プレビュー
複製／消去／結合
編集
リーダービュー

PDF 保存
用紙定義設定
RIP 後プレビュー機能
面付け
VDP
テンプレート管理
トンボ

Fiery Compose (P27)

プレビュー
サブセットフィニッシング
ページ毎の片／両面設定
用紙の挿入
タブ紙挿入
用紙種類の混合



Fiery Color Profiler Suite (P29)

プロファイルの作成

高速プロファイル
プリンタープロファイル
モニタープロファイル
デバイスリンクプロファイル
プリンターマッチ

プロファイルの検査など

プロファイルの検査
プロファイルの編集
プロファイルの検証
プロファイルの自動検証



INDEX

高速データ処理を実現するFiery サーバーのアーキテクチャ	2
誰でも簡単に場所を問わずにプリント	3
高度なジョブ管理に対応するCommand WorkStation	4
Command WorkStationでFiery サーバーを使いこなす	6
高度なセキュリティ機能と印刷環境の高い運用性をサポート	8
ジョブを自動処理するHot Foldersとフィルター	10
プリンティングワークフロー構築に備える	12
後処理&納品工程を考慮した多彩な機能	14
高品位なカラー印刷を支えるカラーマネージメント機能	16

キャリブレーションとカラー印刷に便利な機能	18
印刷ミスを防ぐデータチェック機能	20
高度なプレビュー機能と分版印刷	22
ハーフトーン印刷と2色印刷	24
テンプレートで簡単に面付けFiery Impose	26
プレビューを見ながら印刷準備Fiery Compose	27
プロダクションプリントに付加価値を与えるバリエアブル印刷機能	28
Fiery Color Profiler Suite	29

高速データ処理を実現する Fieryサーバーのアーキテクチャ

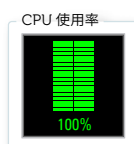
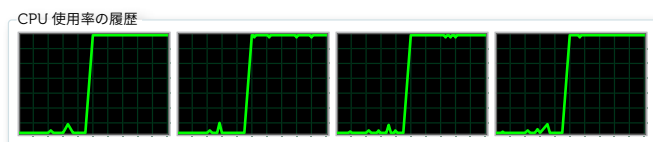
プリントサーバーのパフォーマンスによって、印刷ジョブの処理速度は大きく変わります。

Fieryサーバーは、Adobe PostScript3やAPPEに加え、大容量データや複雑なPDFファイルの処理を高速に行う独自のアーキテクチャを搭載し、プロダクションプリントをサポートします。

SmartRIP 2

カラーの圧縮とレンダリングを加速し、CPUの能力を最大限に発揮するソフトウェアアーキテクチャです。Adobe PostScript 3と組み合わせることで、高速処理を可能にします。

Adobe製アプリケーションファイルおよびMicrosoft製アプリケーションファイルの最適化を行い、Fieryサーバーの能力を最大限に引き出すことができます。



SmartRIP2を搭載したFieryサーバーは、マルチコアCPUの使用率を100%まで引き出して使い切り、効率の良いRIP処理を行います。

Adobe PDF Print Engine 3.0

Adobe PDF Print Engine (APPE) は、PDFファイルをPostScriptファイルに変換せず処理できるレンダリングエンジンです。透明効果の分割処理を行わないため、PDFファイルを印刷する際に生じるトラブルを格段に低下させることができます。

FS150Pro搭載のFieryサーバーには最新のAdobe PDF Print Engine 3.0を採用。バリエーション豊富なデータを含む大規模なトランザクション印刷にも対応する高いパフォーマンスを発揮します。

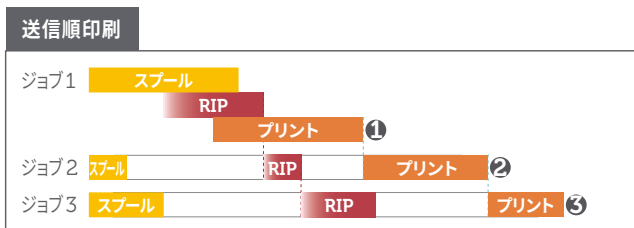
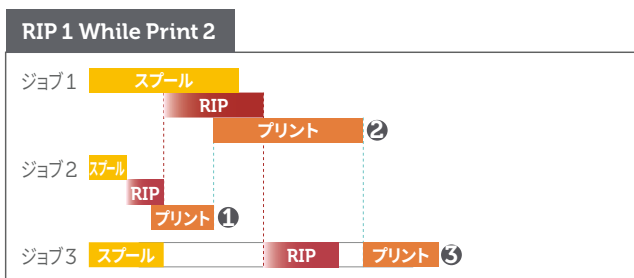
なお、APPE未対応機種であっても、Fieryサーバーが搭載するCPSIの独自機能により、透明効果を含んだPDFファイルもAPPE同様に対処できるよう工夫されています。



RIP 1 While Print 2 と送信順印刷

ジョブを受信しながら印刷とRIP処理を同時に行う「RIP 1 While Print 2」により、メモリを使い切ることなくジョブのRIPが可能。「RIP待ち」のジョブを軽減し、プリント全体の時間を短縮して生産性が向上します。

一方、「送信順印刷」では、ネットワークから送られるジョブの送信順序を維持し、印刷の順番が「先入れ先出し」(FIFO: First In First Out) になります。送信順印刷は、ジョブの大きさに関わらずジョブの出力順を守って印刷します。



送信順印刷は、ナンバリング印刷などクライアントPCからデータを送った順番を変えずに印刷したい場合に活用します。

誰でも簡単に 場所を問わずにプリント

プリント作業を簡便に行うため、インターフェイスにこだわって
使いたい機能にすぐアクセスできるプリンタードライバーを用意。
無線LAN環境では、タブレットやスマートフォンからの印刷にも対応。
iPhoneやiPadから Fiery サーバーの状況を確認し、ジョブを印刷することも可能です。

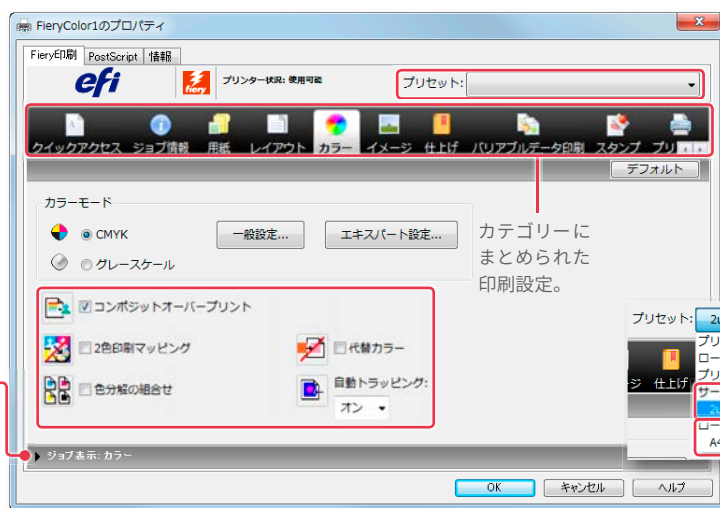


プリンタードライバー

頻繁に使うプリントオプション項目を
まとめる「クイックアクセス」タブや、
印刷目的に合わせた設定を保存する
「プリセット」など、印刷時の設定作
業を簡略化する機能を搭載。
使いやすさを重視したインターフェ
イスを提供しています。



「ジョブ表示」欄を開くと、片面／両面や製本、綴
じの状態を簡易的なプレビューで表示します。



「サーバープリセット」
はグループワークの
ルールや納品物に合
わせた印刷設定を利用
できます。



「ローカルプリセット」
は作業者だけの設定
を保存して、印刷設定
を簡略化できます。

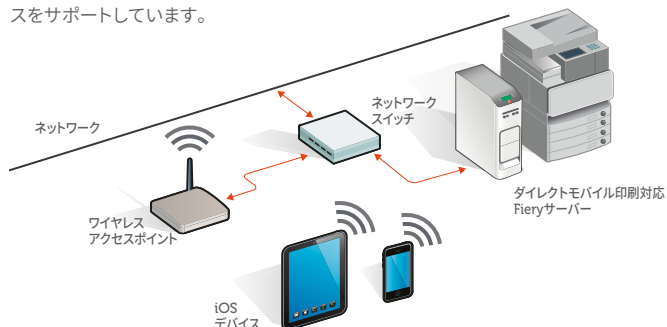
iPadやiPhoneから「ダイレクトモバイル印刷」

Fieryサーバーがワイヤレスネット
ワークが利用可能なネットワー
クに接続されていると、同一ネット
ワークのiPadやiPhoneなどの
iOSデバイスからドキュメントを印
刷できます。



モバイルデバイスから、部数や片
面／両面印刷を指定できます。

ダイレクトモバイル印刷は、印刷機能を備
えた Apple iOS 4.2以降のモバイルデバイ
スをサポートしています。



Fieryサーバーをモバイルデバイ スで管理する「Fiery Go」

「Fiery Go」は、Fieryサーバーの待機
ジョブや印刷済みジョブをiPadやiPhone
で印刷・削除・プレビューできるiOS /
Android用アプリです。

紙詰まりや用紙切れなど本体の状況も遠隔
地から確認できるので、プロダクションプリンターの生産性を損
なわずに印刷作業が行えます。



上写真はタブレット版です。スマートフォ
ンではジョブのプレビューはできません。

高度なジョブ管理に対応する Command WorkStation

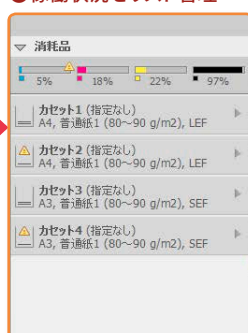
Command WorkStationは、印刷ジョブとサーバー機能を管理・編集するユーティリティツールです。WindowsおよびMac OS Xで利用でき、ジョブ管理・編集用の「ジョブセンター」、サーバー管理用の「デバイスセンター」という2つの役割を備えています。ここでは「ジョブセンター」の機能を説明します。



Fiery サーバーに送信されたジョブを管理する「Command WorkStation」

ジョブセンターでは、①クライアントPCから直接ジョブをFieryサーバーに送信する、②ジョブのプロパティを設定する、③印刷前にジョブをプレビューする、④消耗品の残量を確認する、などの機能を搭載しています。

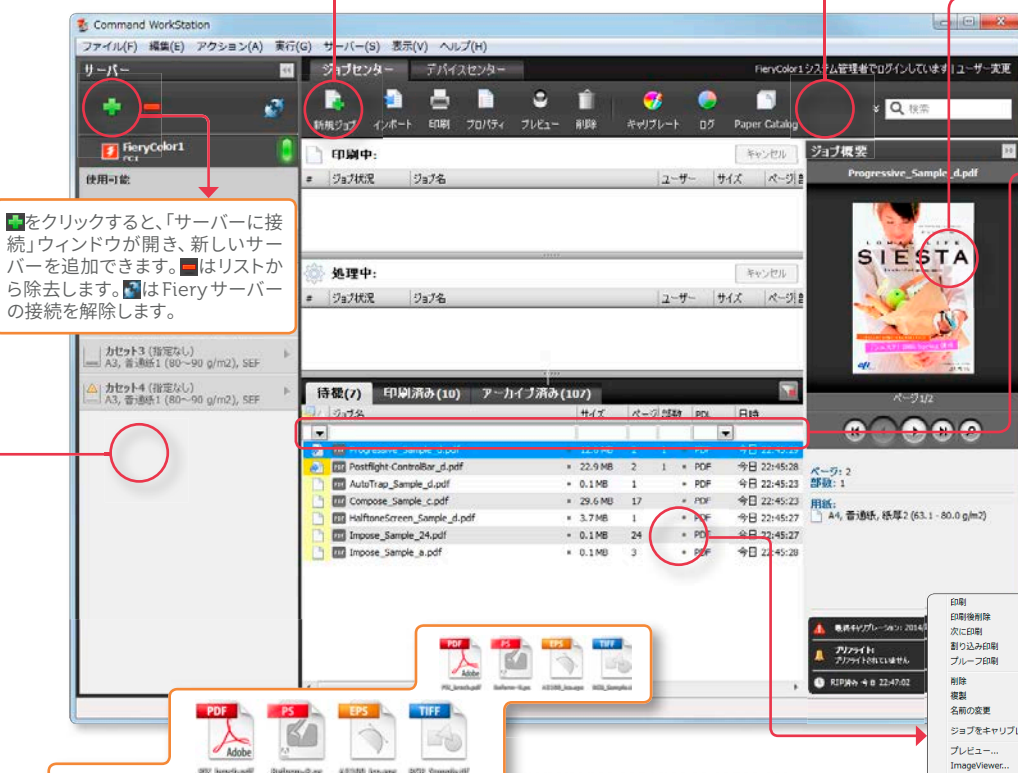
④稼働状況をリスト管理



「消耗品」タブには、トナー状況と、各トレイ内の用紙残量が表示されます。

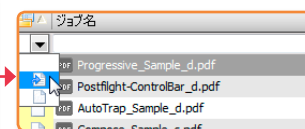
[新規ジョブ] アイコンをクリックして、Fiery ImposeおよびFiery Composeで新規ジョブを作成できるようになりました。スキャンページのインポート、既存ジョブの統合といった処理を空のジョブから開始する場合に役立ちます。
※Command WorkStation 5.6以降で対応

ツールバー上で右クリックし、「カスタマイズ」を選ぶことでツールアイコンの追加や削除が行えます。



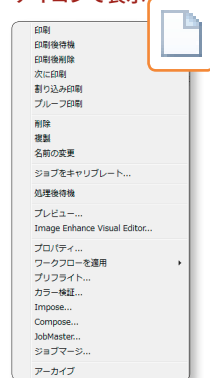
🟢をクリックすると、「サーバーに接続」ウィンドウが開き、新しいサーバーを追加できます。🔴はリストから除去します。🔵はFieryサーバーの接続を解除します。

③ RIP済み待機ジョブを選択すると、「プレビュー」エリアでプレビューを表示します。複数ページの場合は、「◀/▶」ボタンをクリックすると、ページをめくって内容を確認できます。



ジョブリストには「フィルタリングリスト」※があり、各カラムの上部にキーワードを入力(または選択)することで、必要なジョブを素早く探せます。複数のキーワードからジョブをフィルタリングすることも可能です。
※Command WorkStation 5.6以降で対応

②ジョブの状況をアイコンで表示



①ドラッグ&ドロップに対応
デスクトップ上からキューにドラッグ&ドロップで印刷ジョブをインポートできます。従来未対応であったフォルダ単位でのドラッグ&ドロップにも対応し、PDF、PostScript、EPS、TIFFファイルのファイル形式が保持されます。

🟡はラスタデータが生成された処理済みジョブ、
🟢はラスタデータなしのスプール済みジョブです。

印刷前にジョブ内容を確認できる2種類の「プレビュー」

Command WorkStationには、RIP処理を行う前後のジョブをプレビューするため、2種類の機能が備わっています。プレビュー画面はサムネイルとシート内容を一画面で表示する2ペインで構成されており、ページ全体を見通しながら、1ページずつ内容を確認することができます。



RIP前の待機ジョブには「Fieryプレビュー」

PDFまたはPostScriptファイルとしてスプールしたジョブのプレビューを行います。シートの表示サイズを変更したり、Fieryサーバー内にあるRIP前の待機ジョブを追加できます。変更したジョブはPDFファイルとして保存することが可能です。



RIP済み待機ジョブには「プレビュー」

RIP処理を終えたジョブは「ジョブ概要」欄にサムネイルが表示され、「プレビュー起動」ボタンをクリックすると、ジョブのサムネイルとシート内容を単独ウインドウで表示します。



ImageViewer

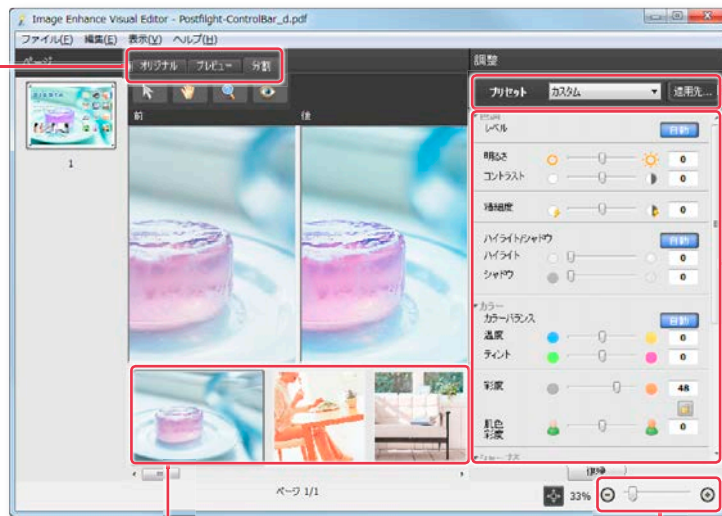
ジョブのソフト校正を行う「ImageViewer」を起動できます。
※Graphic Arts Package, Premium Editionの機能です。

プレビューを見ながら色調補正「Image Enhance Visual Editor」

「Image Enhance Visual Editor」(IEVE)は、高品位イメージ画像アプリケーションです。スプール済みジョブをIEVEで開くと、ページ全体、あるいは画像ごとに調整(色調、カラー、シャープさ、赤目補正)が行えます。IEVEで編集した結果はジョブに残るため、調整前の状態に戻すこともできます。



調整作業は、「オリジナル」(元データ)、「プレビュー」(調整後)、「分割」(オリジナルと調整後の結果を表示)という3つの方法で確認できます。



編集した設定は「プリセット」として保存できます。「補正なし」を選ぶとオリジナルの状態に戻ります。

調整作業は、画像に適した設定を自動的に適用する以外に、画面を見ながらスライダーを動かして調整できます。

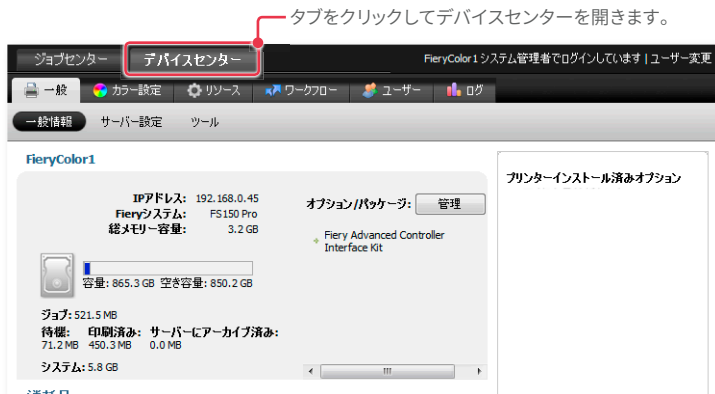
Image Enhance Visual Editorは、単独のウインドウで開きます。そのまま保存すると編集中のジョブを上書きするため、新たに修正結果を残す場合は別名保存してください。

ジョブ内の画像がすべて表示されるので、調整したい画像を選択します。

Command WorkStationで Fieryサーバーを使いこなす

Command WorkStationのデバイスセンターには、プリントオプション設定の初期設定や、プロファイル、スポットカラーの管理、用紙カタログなど、Fieryサーバーの管理に必要な機能が搭載されています。ここでは、特に便利な機能を紹介します。

Command WorkStationのデバイスセンターに搭載された機能



デバイスセンターの機能

各機能のタブを開くと、関連する設定項目が開きます。デバイスセンターには「一般」タブ以外に5つのタブがあり、さらに細かい印刷管理ツールにアクセスすることが可能です。

両面印刷時のズレを補正するトレイ調整

定型サイズの下紙の印刷時に印字ズレが生じた場合、印字位置を調整してすべての印刷ジョブに適用することができます。



トレイ調整用ページを印刷し、実際にズレが確認された数値を入力して補正します。

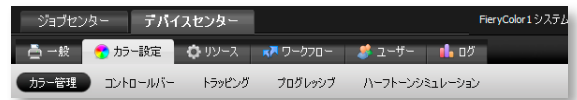
●一般タブ

FieryサーバーのIPアドレスやハードディスクの空き領域、インストール済みのオプションなどの情報が表示されます。[サーバー設定]ではFieryサーバーの各種設定が確認でき、キャリブレーション機能(18ページ)、両面印刷時の位置ズレを調整する[トレイ調整]、Fieryサーバーのリソースや設定のバックアップする機能が用意されています。



●カラー設定タブ

カラーワークフロー図を表示し、カラー印刷の初期値を設定できます。この他、コントロールバーやトラッピングなど、Fiery Graphic Arts Package, Premium Editionに搭載されたオプション機能も設定可能です。



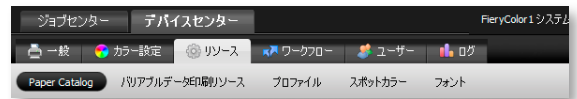
●ワークフロータブ

仮想プリンターやサーバープリセット、高品位イメージ画像を設定します。



●リソースタブ

用紙カタログやバリエーションデータ印刷データ、プロファイル、スポットカラー、フォントを設定/管理できます。



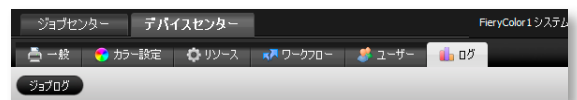
●ユーザータブ

システム管理者によって割り当てられたユーザー権限を表示/比較します。



●ログタブ

処理済み、および印刷済みジョブの詳細ログを表示します。ログはCSVファイルとして書き出すこともできます。



カラーマネジメントに関連する設定

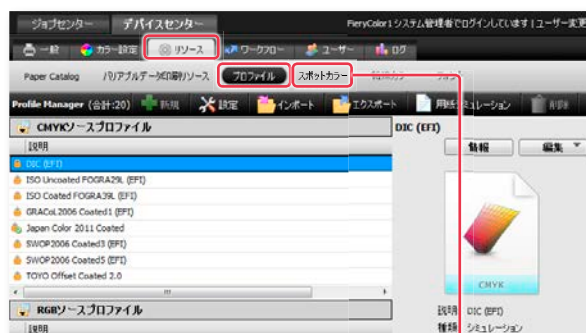
カラー設定タブの「カラー管理」では、カラースペースごとにプロファイルやレンダリングインテントを指定して印刷の初期設定として利用できます。

そして、「リソース」タブの「プロファイル」ではCMYK/RGBソースプロファイル、出力プロファイル、デバイスリンクプロファイルを管理。「スポットカラー」では、スポットカラーの新規登録や色数値の編集が行えます。詳細は16ページをご覧ください。



プロファイルや処理方法を選択するとフロー図が瞬時に切り替わり、カラー印刷の動きが視覚的に分かるようになっています。

「エキスパート設定」では3つのタブを切り替えて「カラー入力」、「グレーとブラックの処理」、「出力」に適用するプロファイルを選択します。



「リソース」タブの「プロファイル」欄ではプロファイルのインポートやエクスポート、編集が行えます。

スポットカラーの編集は、「リソース」タブの「スポットカラー」欄で行います。印刷結果を見ながら、画面上の近い色を選択するだけでスポットカラーの定義(カラー値)を編集できます。



Fieryサーバーの稼働状態を視認できる「Fiery Ticker」

「Fiery Ticker」は、Fieryサーバーに直接接続されたモニター上で利用できるステータスインターフェイスです。上部のステータスバーには、現在処理中(または印刷中)のジョブを示すインジケーター、デジタルプリンターの稼働状況、消耗品の残り具合が常に表示されています。そして、フルスクリーンプレビューに切り替えると、遠くの席からもFieryサーバーの状態が視認できます。

「Fiery 注釈メモ」を使うと、スクリーン上に注釈メモが現れます。オペレーターが在席状況を他者に伝えるなど、コミュニケーションツールとして役立てることができます。



「Fiery 注釈メモ」を使うと、モニターに注釈を投稿・表示できます。この注釈は、他のどのウィンドウよりも常に手前に表示されるので、一時的な連絡手段として利用できます。

上部にはステータスバー、フルスクリーンプレビューではFieryサーバーをリモートから視覚的に監視できるように、現在印刷中のジョブの進行状況インジケーターおよびジョブ名などの情報が表示されます。



高度なセキュリティ機能と 印刷環境の高い運用性をサポート

Fiery サーバーには、高度なセキュリティ設定が標準機能として搭載されています。専門的な知識も必要なくFiery サーバーにセキュリティ設定が施せるため、外部漏洩が心配な重要文書も安心して印刷することができます。

不正アクセスをシャットアウトできる複数のセキュリティ設定

Fiery サーバーへの不正アクセスや不正使用を防ぐため、セキュリティ機能を搭載しています。IP アドレス範囲を指定してジョブの受容または拒否を決定する「IP フィルタ設定」を利用すると、使用する端末を限定できます。

不正アクセスの通り道になりやすいポートをブロックする「ポート設定」は、社外からのアクセスはもちろん、社内からのアクセスにおいてもセキュリティを管理でき、Fiery サーバーやデジタルプリンターの不正利用、情報流出を防ぎます。

▼IP フィルタ設定

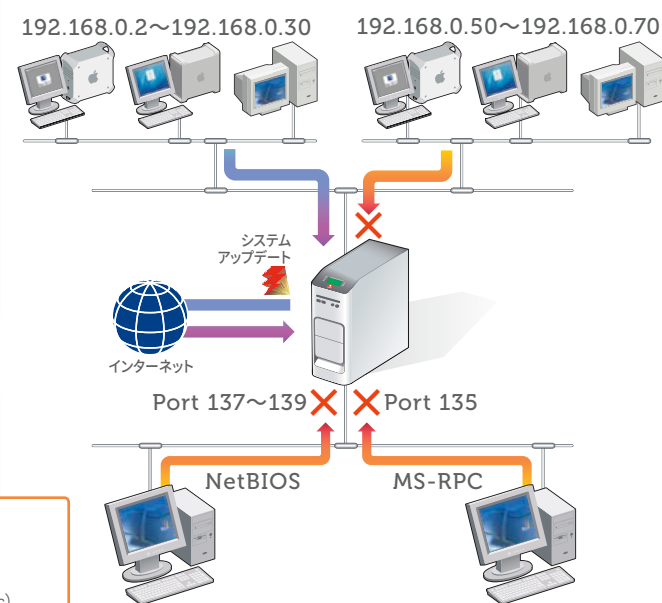


IP アドレスは複数の範囲を指定できます。

▼ポート設定



Fiery サーバーのセキュリティ設定



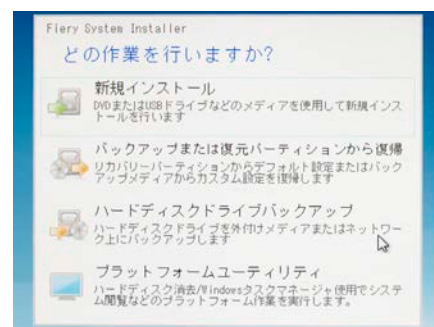
ポート設定では、インターネット接続やLAN 接続で利用するポートを閉じることで、不正アクセスを防ぎます。

システムソフトウェア DVD による バックアップおよび復旧

この機能を利用すると、システムソフトウェアの再インストール後、Fiery サーバーのシステムバックアップパーティションを新たに作成し、以前の状態に復旧させるためにシステム回復パーティションをロードする、あるいは、ユーティリティを使用して Fiery サーバーのトラブルシューティングと管理などが行えます。



バックアップの保存先として、USB 接続可能なハードディスクドライブ (2.5 インチ / 3.5 インチ) や、USB メモリなどが選択できます (ドライブ容量に注意してください)。



Fiery サーバーにディスプレイやキーボード、マウスが接続されていると、Fiery サーバー本体の画面よりも詳細な説明を見ながら、システムのバックアップが行えます。

WebブラウザでFieryサーバーにアクセスできる「WebTools」

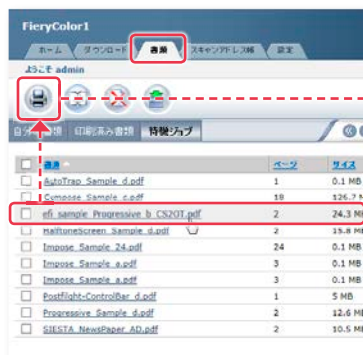
Internet ExplorerやSafariなどのWebブラウザを用いて、Fieryサーバー設定の参照と変更を行う機能です。WebToolsの機能はタブによって整理されているので、利用したい機能にすぐアクセスできます。

なお、WebToolsでは、プリントデバイスの状況や各種設定を確認する以外に、Fieryサーバーへのジョブの送信機能やスキャンジョブのダウンロード機能が用意されています。また、待機キューや印刷済みにあるジョブをプレビューすることも可能です。



●ホームタブ

WebToolsを起動すると、最初に「ホーム」が現れ、Fieryサーバーとデジタルプリンターの最新状況を確認できます。WebToolsでは、ユーザーソフトウェアやプリンタードライバーもダウンロードできます。



●書類タブ

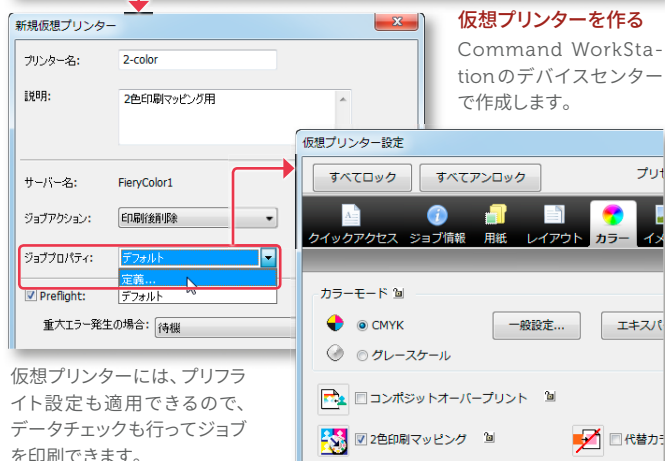
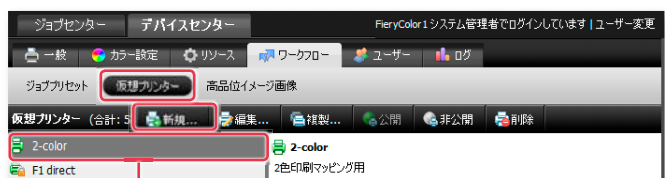
Fieryサーバーの待機済みジョブ／印刷済みジョブを閲覧し、再印刷が行えます。また、印刷済み書類のファイル名変更や再印刷時の部数変更も可能です。ジョブを送信する際には、送信先に仮想プリンターを選択することもできます。



印刷済みまたは待機ジョブを選択し、プレビューでジョブ内容を確認して再印刷できます。印刷部数の変更も可能です。

印刷目的に合わせた設定をそのままプリンタードライバーとして使える「仮想プリンター機能」

「仮想プリンター」は、目的に合わせてジョブアクションやプロパティを設定し、プリンタードライバーとして利用できる機能です。常用する設定で作成しておく、プリント設定を行う手間を省くことができます。



仮想プリンターには、プリフライト設定も適用できるので、データチェックも行なってジョブを印刷できます。



[ジョブのプロパティ] 欄で[定義]を選択すると[仮想プリンター設定]画面が開き、ジョブのプロパティを指定できます。

プリンタードライバーとして利用する

SMB接続時にキューとして選択した例。「接続」を使用して、プリンタードライバーとしてインストールできます。

プリントオプション設定の「プリセット」をグループ全体で共有できる「ジョブプリセット」

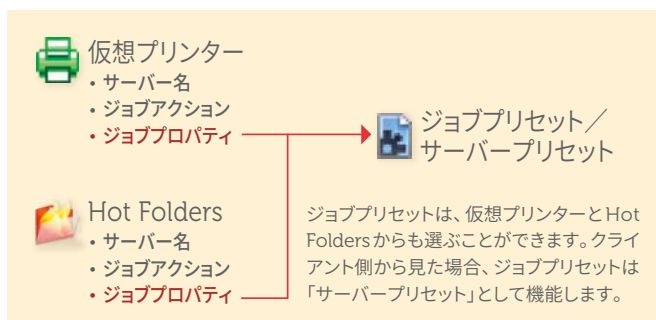
プリンタードライバーには「プリセット」機能があり、頻繁に使うプリントオプション設定を保存できます。しかし、この機能はスタッフ間で共有することができません。

「ジョブプリセット」は、Fieryサーバー上にプリセットを作成する機能です。出来上がった設定は、「サーバープリセット」として共有し、クライアントPCから利用できます。



ジョブプリセットを作る

Command WorkStationのデバイスセンターで作成し、「仮想プリンター」として公開することもできます。



ジョブを自動処理する Hot Folders とフィルター

プロダクションプリントでは、印刷工程をスムーズにするために印刷前工程の自動化や省力化が欠かせません。Hot Foldersは印刷の自動処理を行うフォルダーを作成・管理するユーティリティです。プリントオプションや面付け、プリフライト、RIP、フィルターなどをあらかじめ設定したHot Folderに印刷ジョブをドラッグ&ドロップするだけで、目的通りの印刷物を仕上げることができます。

大量の印刷ジョブもドラッグ&ドロップするだけで一度に処理

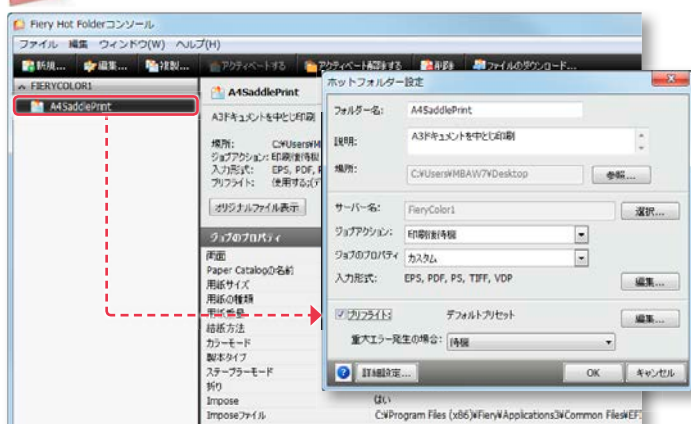
Hot Folderは設定ごとに複数作成でき、頻繁に使用する印刷設定の省力化が可能です。

Hot Foldersを使用すると、ファイルを作成したアプリケーションを起動せずに印刷できるので、印刷作業の効率化と印刷設定のミスを防ぐことができます。

さらに、JPEGやCT/LWなどの特殊なファイルも「ファイルフィルター」を使うことで自動処理が可能となります。



Hot Foldersのコントロールパネル



Hot Folderには、「印刷キュー」などのジョブアクションやジョブのプロパティ、処理を実行するファイルフォーマット、プリフライト設定を適用できます。利用可能なファイルフォーマットは、右表をご参照ください。

Fiery Hot Foldersが搭載するファイルフィルター

標準機能フィルター

PS、VDP、MS オフィスファイル (.doc, .docx, .xls, .xlsx, .ppt, .pptx, .pps, .pub)

Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition (オプション)

一般フィルター

EPS、JDF、PDF、TIFF

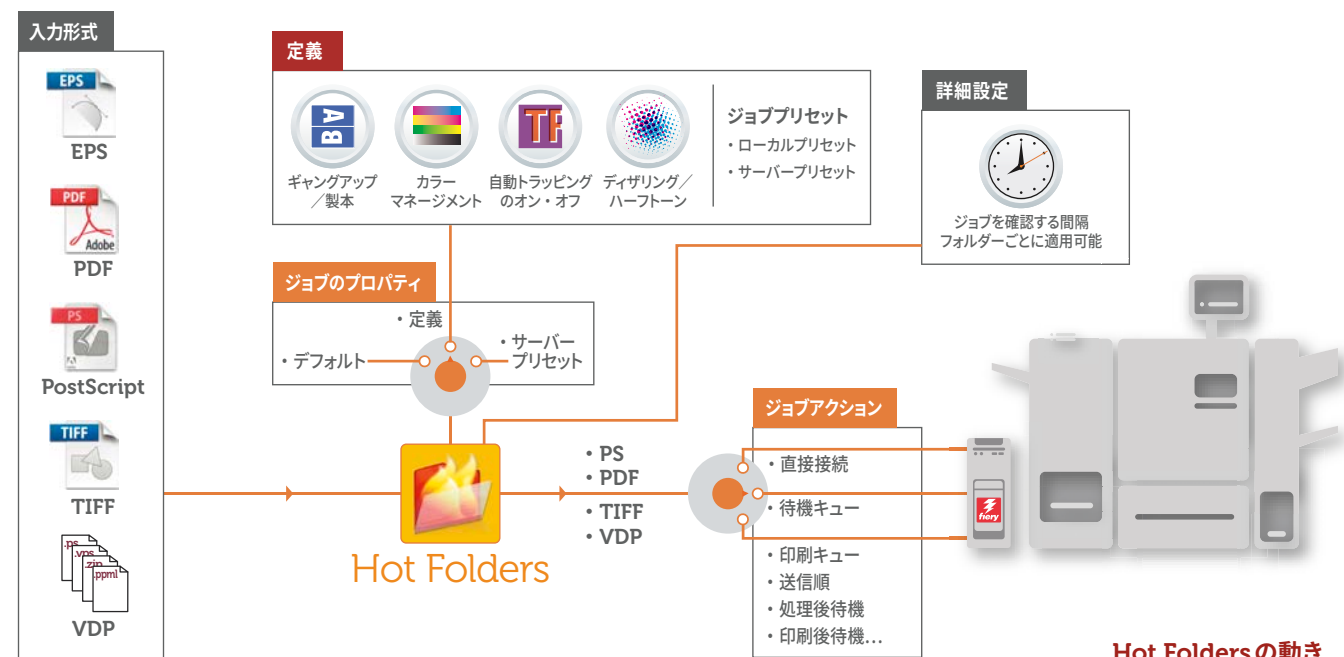
色分解フィルター

DCS、TIFF/IT-P1

特殊フィルター

CT/LW、ExportPS、PDF2Go

Fiery Hot Foldersフィルターを使用すると、上表のファイルフォーマットをPDFまたはPostScriptファイルに変換できるので、Hot Foldersによる自動処理が可能になります。



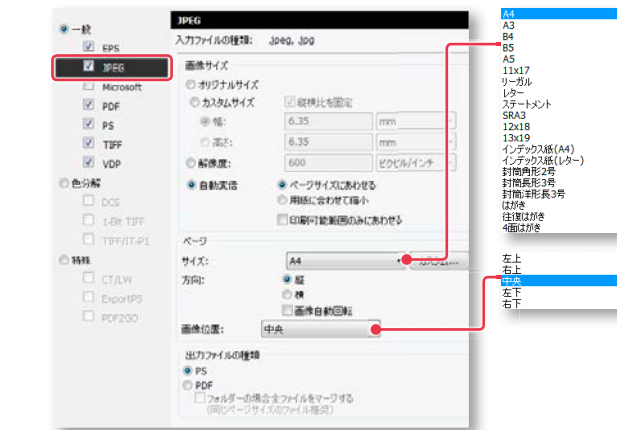
Hot Folders フィルターによる自動処理

「Hot Folders フィルター」は、PDF、TIFF、EPS、PostScript 以外のファイル进行处理する機能です。JPEG や DCS2.0、CT/LW など標準機能では対応していないファイルフォーマットであっても、PDF や PostScript に変換して自動処理が行えます。

また、「PDF フィルター」では PDF/X-1a または PDF/X-3 をプリフライトできます。準拠していないジョブは処理されず、エラーレポートが生成されるため、わざわざ Acrobat で確認する必要はありません。

すべてのフィルタ設定にはオプション画面が用意されており、解像度や変換するフォーマット、PDF 変換時の画像配置位置などを決定できます。

JPEG フィルターの内容



JPEG→PDF フィルタでは、生成する PDF ファイルのページサイズに合わせて画像を縮小・拡大したり、配置する位置を設定できます。

PDF フィルターの内容



PDF フィルターでは、プリフライトを実行する PDF の仕様選択と、エラーレポートの保存、保存場所の選択が行えます。「フォルダー」ごと処理すると、複数の PDF をひとつにマージして Fiery サーバーに送信できます。

PS フィルターの内容 (標準機能)



PostScript フィルターでは、一度 PDF ファイルに変換して処理します。変換時には Acrobat Distiller の設定を利用できます。

特殊フィルター

特殊フィルターでは、CTP 向けワークフロー RIP の中間ファイルとして扱われる CT/LW や Export PS、PDF2GO ファイルを処理できます。一般に、CTP プレート出力直前の中間ファイルは、デジタルプリンターから印刷できません。しかし、Hot Folders フィルターに搭載された特殊フィルターでは、デザイナー自身が文字化けをチェックするといった検版作業が行えます。

※スクリーニング方式が異なるため、モアレなど網点の確認には向きません。搭載フィルターは機種によって異なる場合があります。

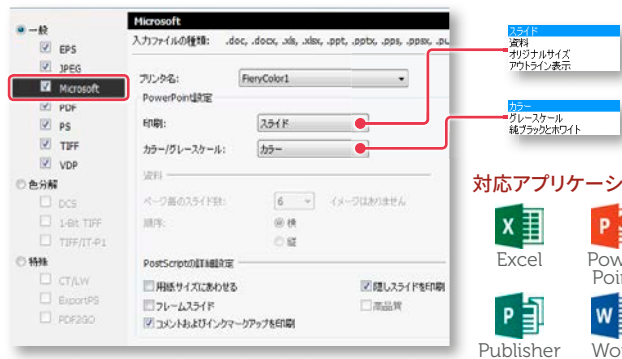


フィルターオプションでは、出力ファイルフォーマットの形式 (PS または PDF) を指定できます。CT/LW、Export PS、PDF2GO フィルターのいずれも、出力時の解像度を選択できます。

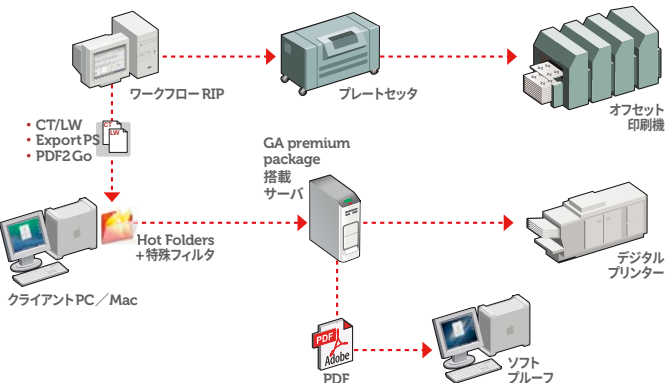
Microsoft フィルター (標準機能)

Microsoft Office 製品のドキュメントを処理するフィルターです。このフィルターを利用することで、Office アプリケーションで作成されたドキュメントの印刷、面付けなどの作業を自動化できます。

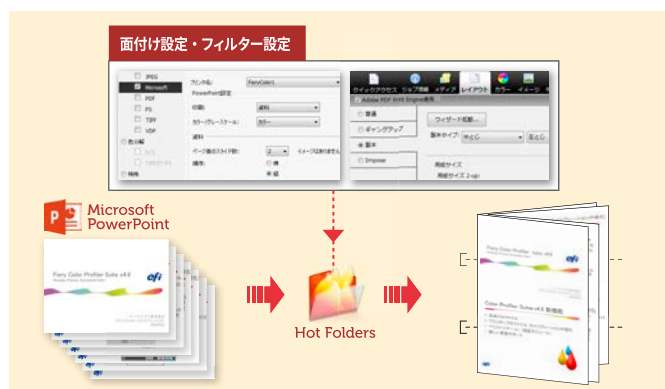
たとえば、中綴じ 2 面付けで印刷したい PowerPoint のプレゼンテーション資料も、Microsoft Office Filter for Hot Folders を利用すれば、手間のかからない製本印刷が可能です。



対応アプリケーション



フィルター処理のスピードはクライアント PC のパフォーマンスに依存します。



フィルタ処理はクライアント PC 上で行うため、対応アプリケーションがクライアント PC にインストールされている必要があります。

高い生産性と効率の良さを重視した プリンティングワークフロー構築に備える

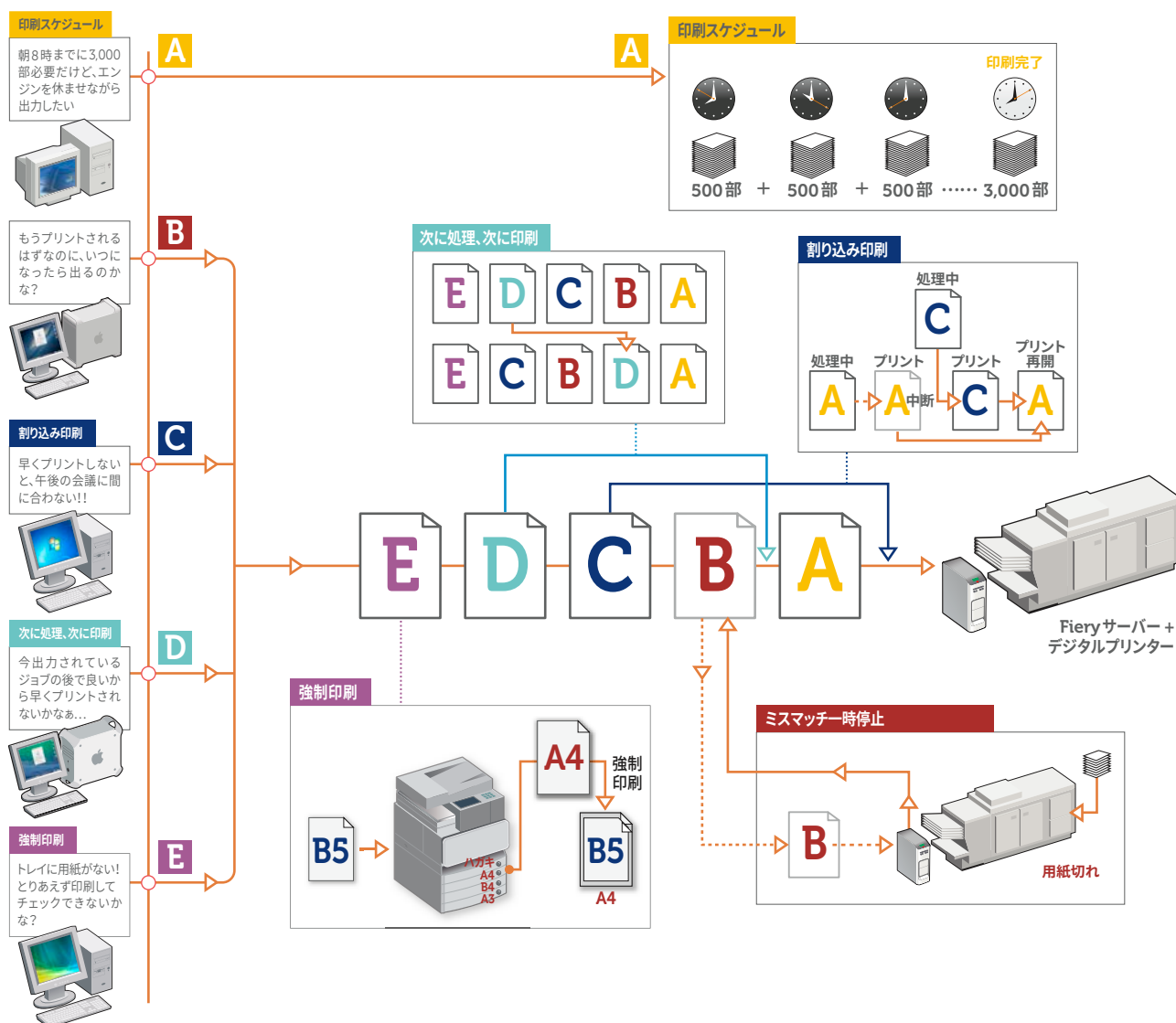
プロダクションプリントの印刷フローを効率化するため、Fieryサーバーに印刷スケジュール(指定時間に印刷)や用紙切れの際に印刷を一時停止する機能を搭載。

マニュアルや論文などページ数が多い印刷物で、章単位、数十ページ単位に分けられて入稿されたジョブは、Command WorkStation上で一つにまとめて印刷できます。

高速なプリント環境を最大限に活かすFieryサーバーの機能

Fieryサーバーが実現するワークフローでは、印刷ボタンを押した後でも、処理を行うジョブの順番を入れ替えることが可能。

大量に印刷待ちのジョブが並んでいても順番を変更できるため、印刷作業が集中しても、急ぎのプリントを最優先に処理できます。



C 割り込み印刷

印刷中の処理を中断して他のジョブを印刷できます。急いでいるときに別のジョブが印刷されていても、これまでのように印刷完了を待ち続けたり、途中の処理を中止する必要はありません。

D 次に処理

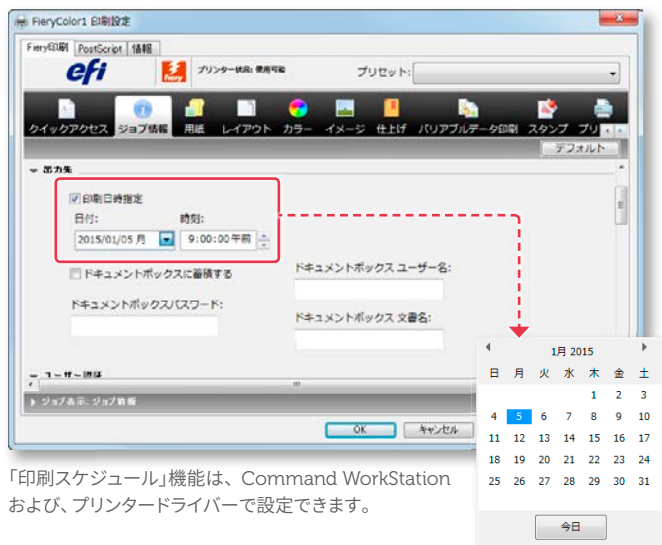
プリント、またはRIP処理を行っている最中に、2番目に処理したいジョブを指定できるのが「次に処理」「次に印刷」機能です。処理されるべきRIP待ち(または印刷待ち)のジョブが先にあっても、順番を飛ばして特定のジョブを優先できます。

E 強制印刷

ジョブに設定した用紙と給紙トレイの用紙種類が異なっていた場合、通常の処理では印刷が一時的に停止されてしまいます。「強制印刷」機能を使用すると、用紙サイズや種類が違っていても、別のトレイを指定して強制的に印刷することができます。

A 印刷スケジュール

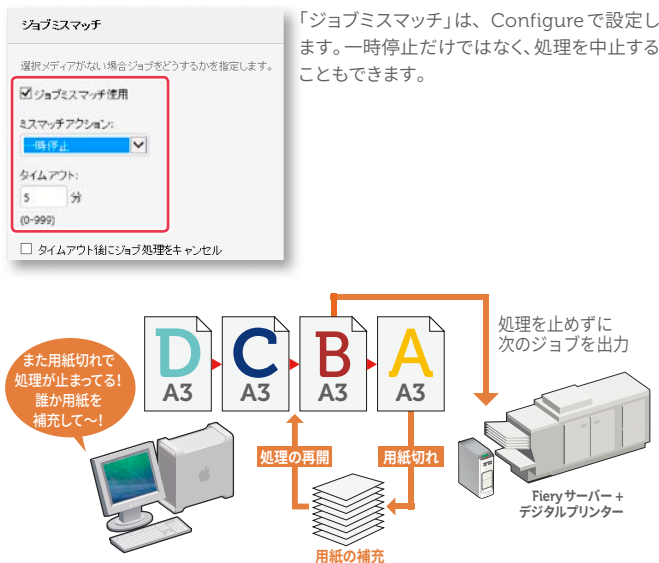
「印刷スケジュール」を利用すると、指定した日時にジョブを印刷できます。これにより、印刷忘れによる納品ミスを防ぐことができるほか、大量の部数を時間を空けてプリントするなど、エンジンへの負荷を軽減させるスケジュールを組むことができます。



「印刷スケジュール」機能は、Command WorkStation および、プリンタードライバーで設定できます。

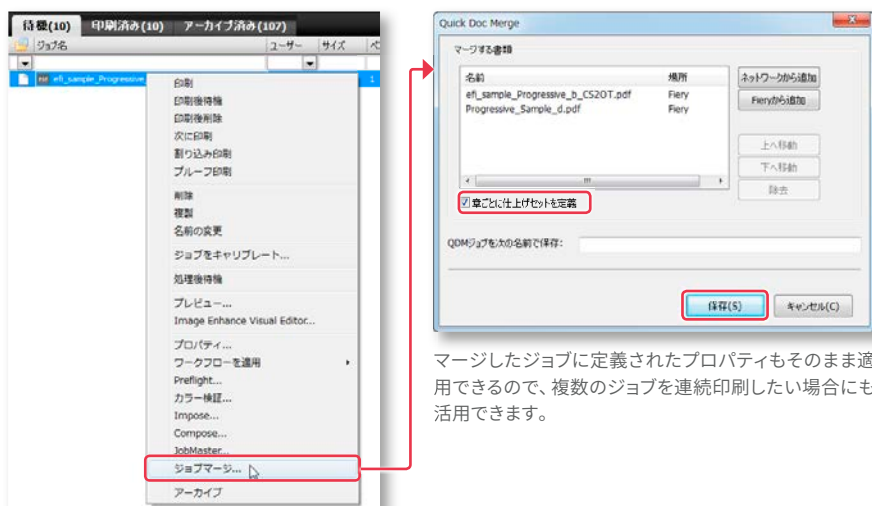
B ミスマッチ一時停止

プリンタードライバーで選んだ用紙がトレイにセットされていないなど、プリントデバイスの状態とプリント設定にミスマッチがあった場合に、処理の内容をキャンセル、または一時停止から選ぶことができます。ミスマッチによる処理の中断が無くなり、連続した印刷が可能になります。

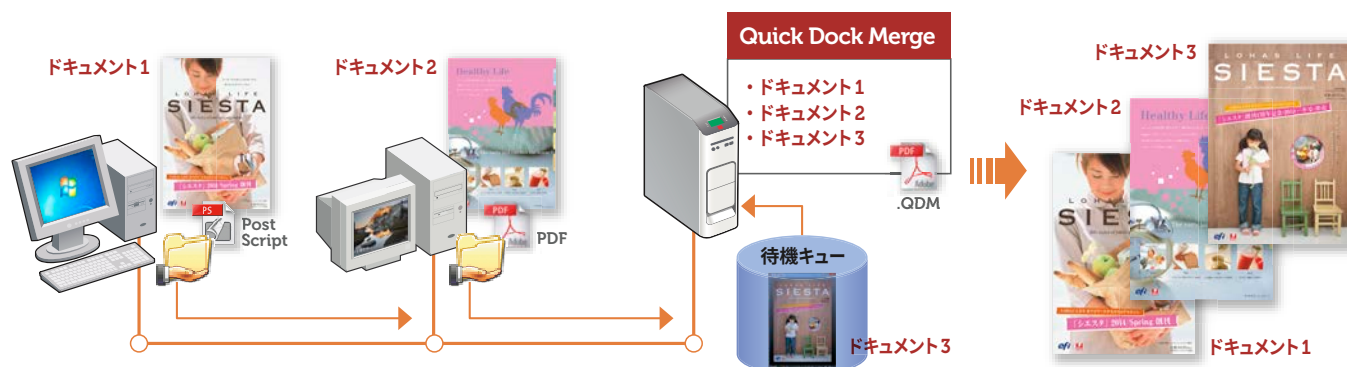


複数のジョブを組み合わせる「ジョブのマージ」

ジョブのマージ(Quick Doc Merge)機能は、複数の書類(ジョブ)を仮想的に1つのジョブにまとめて印刷する機能です。Fieryサーバーの待機キューに保存されたスプール済み待機ジョブ(PostScriptおよびPDFファイル)であれば、サイズが異なるジョブでもマージでき、各書類に設定された個別のプロパティもそのまま活かして印刷できます。マージされたジョブは「.QDMファイル」のPDFファイルとして保存されます。



マージしたジョブに定義されたプロパティもそのまま適用できるので、複数のジョブを連続印刷したい場合にも活用できます。



ネットワーク上のPCの共有フォルダにあるPDFファイル、PostScriptファイルもFieryサーバーに追加することができます。

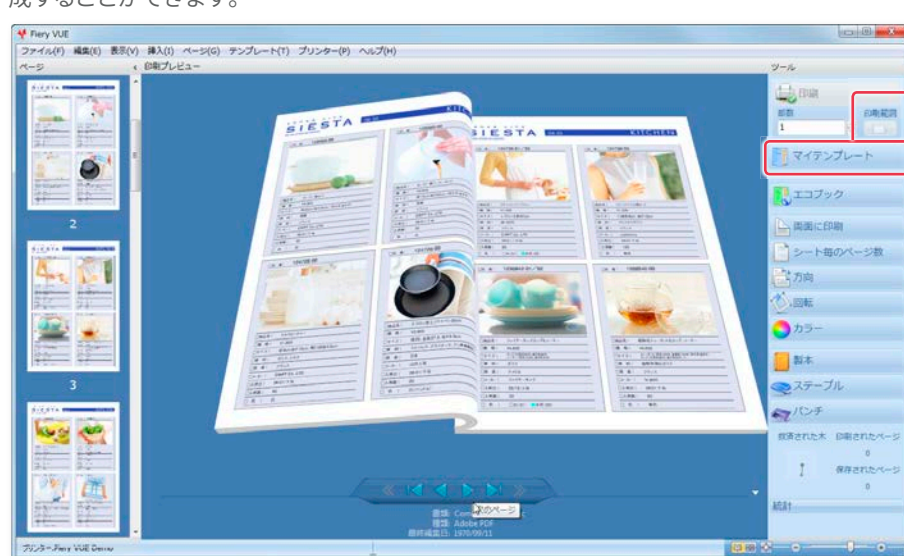
後処理&納品工程を考慮した 多彩な機能

プロダクションプリントを生業としている企業では、複数の出力機を使い分けることも珍しくありません。用紙カタログを使うと、用紙種類や特徴をデータベース化して複数のFieryサーバーで共有可能。用紙種類の混合を利用すれば、一つのジョブに複数種類の用紙を指定できます。そして、Microsoft Officeドキュメント向けに印刷物制作をサポートする「Fiery VUE」を用意。ドキュメント制作と印刷という2つの場面で、プロダクションプリントをサポートします。

Fiery VUE

Fiery VUEは、Microsoft OfficeのドキュメントまたはPDFファイルを読み込み、プレビュー画面を見ながら印刷準備を行えるWindows用アプリケーションです。すでに出来上がったドキュメントに対して、ステープル留めやリング製本、パンチ、中綴じ製本などの仕上げが行えます。作業画面は2Dまたは3D表示が可能で、指定した印刷仕上げを反映して表示するため、印刷知識が浅い初心者でも中綴じ印刷やプレゼン資料の配付用印刷物が簡単に作成できます。

また、Fiery VUEには「エコブック」という自動レイアウトテンプレートが収録されており、初心者でもパンフレットなどの小冊子を作成することができます。



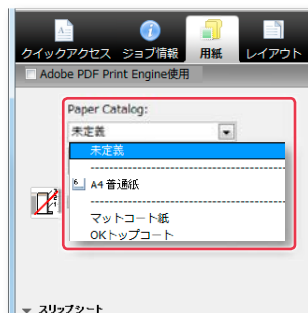
仕上げや製本設定をカスタマイズして、テンプレートとして保存できます。

Fiery VUEでは、画面を見ながらテンプレートを選ぶだけで印刷準備が整うので、失敗のない印刷が行えます。Fiery VUEは、EFIのホームページ(<http://w3.efi.com/en/Fiery/Products/Office/Fiery-VUE>)から、無償でダウンロードできます。

面倒な用紙設定を簡単にする「用紙カタログ」

デジタルプリンターで利用可能な用紙をデータベース化したのが「用紙カタログ」です。用紙カタログでは、デジタルプリンターと連動して用紙サイズや種類、出力プロファイルなどが登録されています。

印刷時に用紙カタログを利用して用紙設定を行うと、出力トレイや用紙の厚さ、種類といった設定を自動的に適用するため、設定ミスを防ぐことができます。



プリンタードライバーの「Paper Catalog」から用紙を選択すると、用紙の種類や厚さを自動的に設定するので、用紙選択時のミスを防ぐことができます。

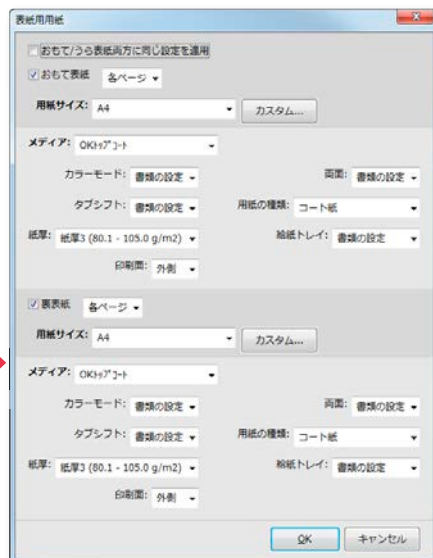
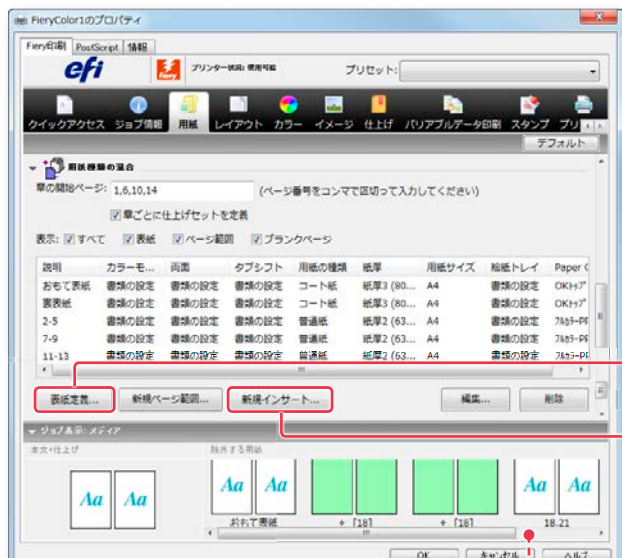


デジタルプリンターと連携しているので、Command WorkStationのデバイスセンターでトレイに給紙された用紙を確認できます。

用紙カタログ情報を書き出し、別のFieryサーバーと共有することができます。

一つのジョブをさまざまな用紙で印刷できる「用紙種類の混合」

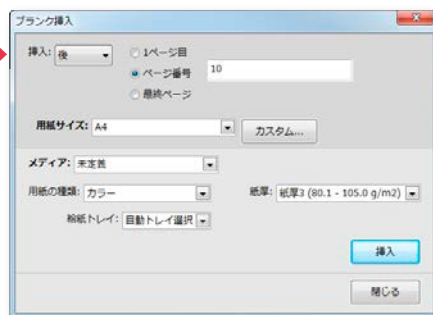
マニュアルや台帳などで表紙や中扉に異なる用紙を利用する場合、これまでは別々にプリントしていました。「用紙種類の混合」は、「表紙に厚紙、章扉には色紙やタブ紙を使いたい」といったニーズに対応する機能です。編集した結果はプレビュー表示できるため、設定ミスを未然に防ぐことができます。1つのジョブの中で複数の用紙を利用しても出力プロファイルが切り替わるため、一貫した色再現を得ることが可能です。



「表紙定義」では、おもて表紙、裏表紙それぞれに別の用紙を設定できます。



「ジョブ表示エリア」には、編集を施した内容を簡易的に表示します。

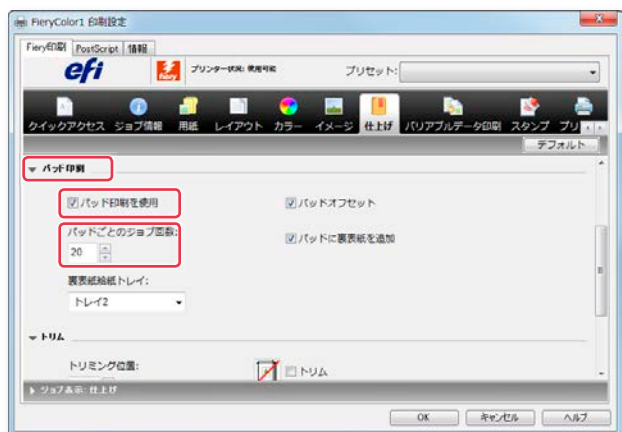


「新規インサート」では、ジョブの中にブランクページ(合紙)を挿入します。

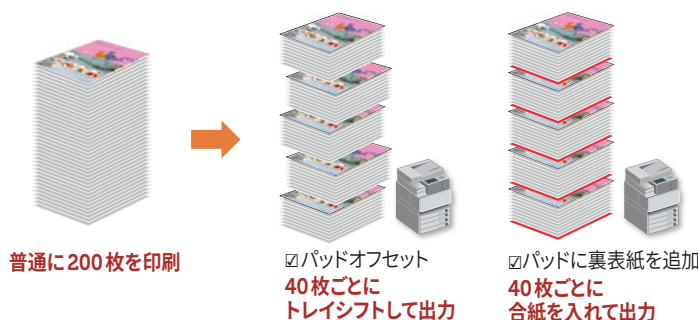
配布先ごとに振り分けながら印刷する「パッド印刷」

一定の部数ごとに配布先が違ふなど、大量部数の印刷でもある程度の枚数ごとにまとめておきたい用途に使用する機能が「パッド印刷」です。

たとえば、印刷枚数200枚において40枚ごと／5カ所の納品先が指示されているような場合、40枚印刷した後に色紙を入れたり、トレイシフト(オフセット)しながら印刷し、後で納品作業や分別作業を簡便化することができます。



区切りを付けて印刷したい枚数を指定します。総印刷枚数は、「部数」欄で指定してください。



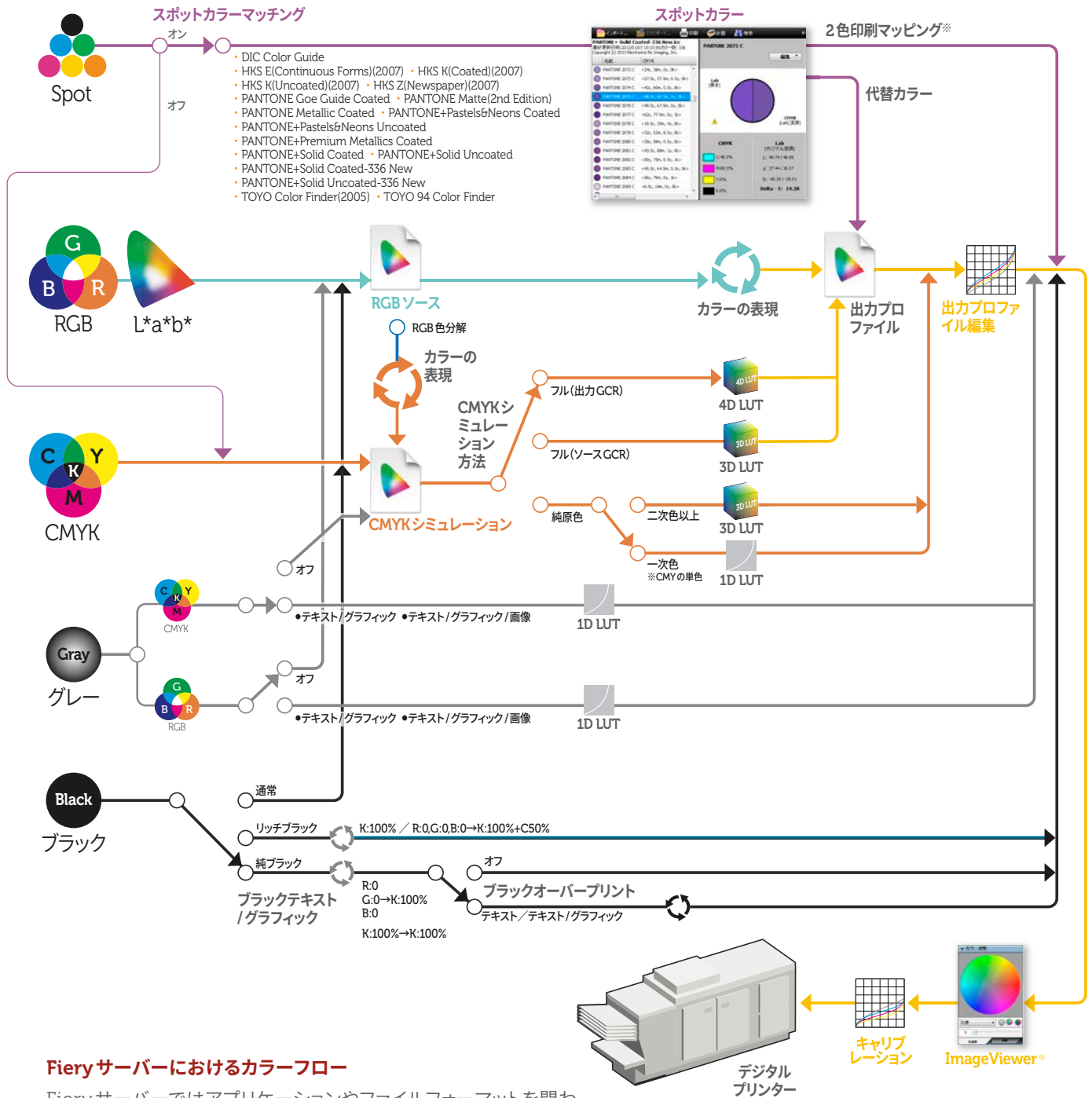
「パッド印刷」はCommand WorkStationの「ジョブのプロパティ」またはプリンタードライバーで指定します。

パッド印刷を利用するには、出力トレイ上でシフトしたり、色紙などをパッドごとに合紙として挿入することができます。

高品位なカラー印刷を支える カラーマネージメント機能

Fiery サーバーのカラー印刷機能は OS やアプリケーションに依存することなく、初心者から熟練者まで満足 of いく結果を提供します。

色にこだわりをもつすべてのお客様の要望に、高度なカラーマネージメント機能で応えます。



Fiery サーバーにおけるカラーフロー

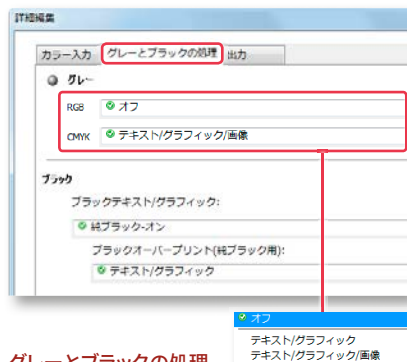
Fiery サーバーではアプリケーションやファイルフォーマットを問わず、CMYK、RGB、スポットカラー、グレーとブラックの各カラーペースごとにカラー管理を行い、プルーフや最終成果物の制作など目的に合わせたカラーマネージメントを適用します。新しく、スポットカラーに「PANTONE Plus」(336色)が加わりました。

「グレー処理」を使えばRGB グレーもKトナーだけで印刷できます

「グレーとブラックの処理」の「グレー」は印刷ジョブに含まれるグレーのオブジェクト(R = G = BまたはCMY各0%、K0～100%で定義されたテキスト、グラフィック、画像)をブラクトナー単色で印刷する機能です。たとえばMicrosoft Officeアプリケーションのカラーパレットでグレーを指定したジョブがあった場合でも、CMYの混色ではなくブラクトナーだけで印刷できます。これでブラックカウンタでの課金となり、印刷コストを節約することができます。

なお、ジョブのカラースペースがCMYKになっている場合は、CMYKシミュレーション方法に「純原色」以外が選択されている必要があります。

※ 色分解の組合せを指定したジョブ、RGB色分解を指定したジョブ、スポットカラーで定義されているグレーには適用されません。



グレーとブラックの処理

プリンタードライバーの「カラー設定」にある「エキスパート設定」を開き、「詳細編集」画面でグレーとブラックの処理を変更することができます。

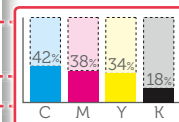
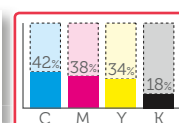
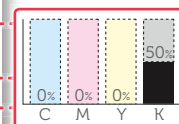


Microsoft® PowerPoint®

テキスト/
グラフィック/
画像

テキスト/
グラフィック

オフ

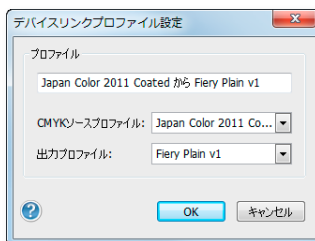


未使用	カラー × 3	カラー × 3	カラー × 3	=カラー：9カウント
使用	カラー × 1、白黒 × 2	カラー × 1、白黒 × 2	カラー × 1、白黒 × 2	=カラー：3カウント 白黒：6カウント

「デバイスリンクプロファイル」によるカラー処理をサポート

Fieryサーバーは「デバイスリンクプロファイル」に完全対応。デバイスリンクプロファイルは、ソース側(CMYKソースプロファイルやオフセット印刷機のプロファイルなど)と出力側(出力プロファイル)のICCプロファイルから、それぞれの色変換テーブルを抽出してまとめたプロファイルです。

デバイスリンクプロファイルにはソース側から直接出力プロファイルに変換するための情報を含んでいるため、Fieryサーバーのカラー変換システムを使用せずに色変換を行います。



[CMYKソースプロファイル]および[出力プロファイル]は実際の印刷に使用するものを選んで運用します。



デバイスリンク
プロファイルを
作成する

29 ページで紹介する Fiery Color Profiler Suite を使用すると、デバイスリンクプロファイルを作成できます。

デバイスリンクプロファイルは、リンクした出力プロファイルを選択することで動作します。

キャリブレーションと カラー印刷に便利な機能

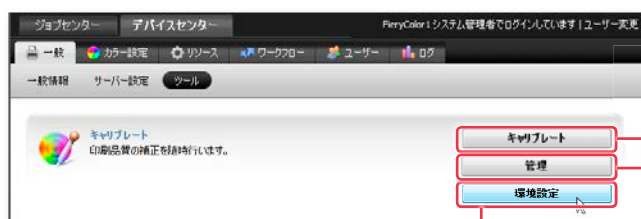
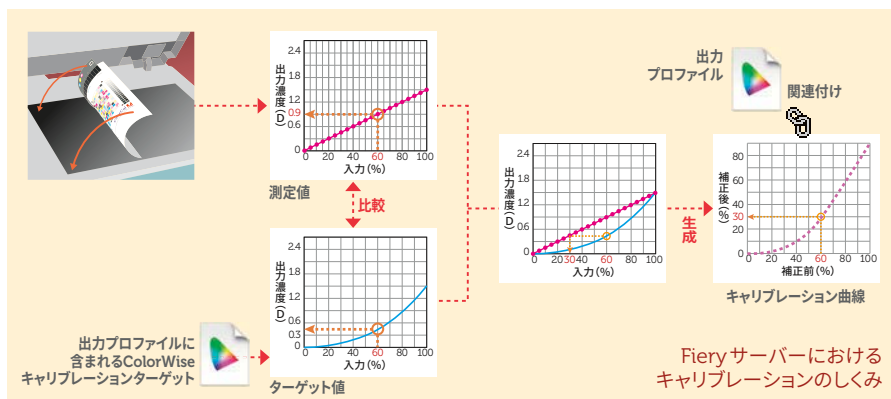


新しいCalibratorではA3サイズの測色用パッチが51パッチに増えて、EFI ES-2000に完全対応しました。

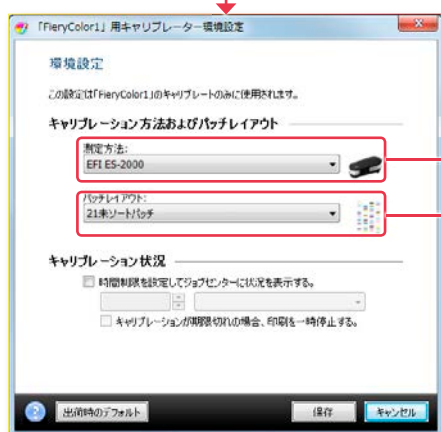
ビジネスアプリケーション向けに、スポットカラーを近似させる代替カラーを搭載。コンポジット印刷時にオーバープリントを再現して印刷する機能も加わっています。

キャリブレーション機能を 標準搭載

キャリブレーション機能では、印刷時のトナー濃度を調整し、デジタルプリンターの期待濃度値（ターゲット）と、実際に印刷した測定濃度値の誤差を補正します。定期的にキャリブレーションを行うことにより、印刷色が安定し、一貫した色で印刷することができます。



キャリブレーション作業は、デバイスセンターの「一般」タブから実行できます。



EFI ES-2000
ColorCal
EFI ES-1000
EFI ES-2000

51ソート済みパッチ



51未ソートパッチ



「パッチレイアウト」には、A4サイズで印刷する「21ソート済みパッチ」、「21未ソートパッチ」、A3サイズで印刷する「51ソート済みパッチ」、「51未ソートパッチ」があります。

「ソート済みパッチ」は4色の濃度順に印刷されます。測定の繰り返し精度が期待できます。

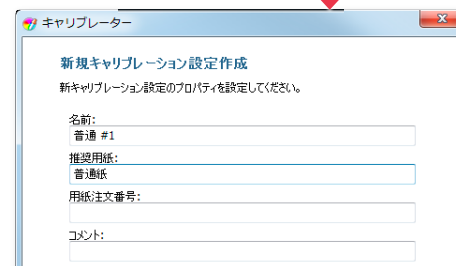
「未ソートパッチ」は、ランダムな順序でパッチが印刷されます。印刷物に濃度ムラがある場合に利用すると良いでしょう。



「キャリブレーター」画面で用紙や給紙力セット、測定方法を選択します。測定用チャートは、環境設定で選択したパッチレイアウトが印刷されます。



「管理」ボタンをクリックすると、キャリブレーション設定と推奨用紙、印刷設定を確認できます。



既存の設定を利用して、お客様自身がコート紙や厚紙の新たなキャリブレーション設定を作成できます。

RGB/CMYKカラーを特定の色で差し替える「代替カラー」

Microsoft Wordで作成した企画書に自社のロゴマークを入れ、プリントしてみるとコーポレートカラーに合っていない.....という現象は、ビジネスの現場で往々にしてあるもの。これは、Microsoft Wordなどのビジネス系アプリケーションはRGBカラースペースしかサポートしておらず、スポットカラー（特色）という概念が存在しないために起きる現象です。

「代替カラー」を利用すると、指定されたRGBカラー（およびCMYKカラー）を、特定のCMYK値に置き換えることができます。従来のSpot-On機能同様、カラーサーチ機能を使って特定の色を設定することもでき、ビジネスアプリケーションで指定できないスポットカラーも「代替カラー」によって印刷できます。



Microsoft® Word

指定色：R166、G255、B97

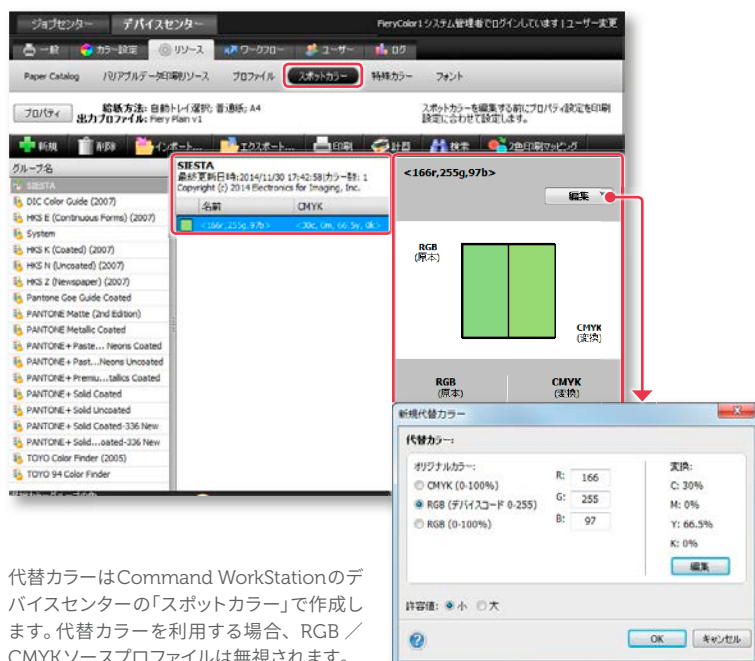
代替色：C30、M0、Y66.5、K0



▲Spot-On
代替カラー：オン



▲Spot-On
代替カラー：オフ



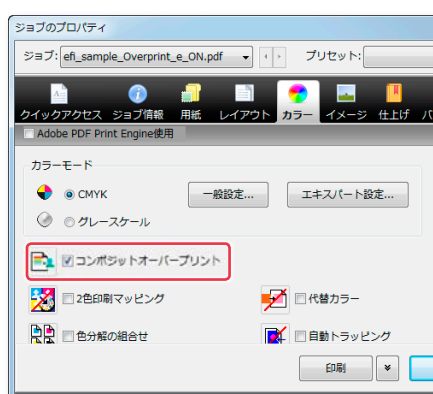
代替カラーはCommand WorkStationのデバイスセンターの「スポットカラー」で作成します。代替カラーを利用する場合、RGB / CMYKソースプロファイルは無視されます。

「色分解の組合せ」を使わずに結果を確認できる「コンポジットオーバープリント」

コンポジット印刷でオーバープリントを再現できる機能です。通常、オーバープリントプレビューをサポートしていないアプリケーションでは色分解出力を行ない、「色分解の組合せ」を行ってオーバープリントの結果を確認します。しかしながら、色分解出力ではCMYK各版をFieryサーバーに送信する必要があるため、スプールやRIP処理に時間がかかります。

「コンポジットオーバープリント」を利用すれば、スピードはコンポジット印刷時と変わりません。さらに、Hot FoldersやFTP印刷などでもオーバープリントを再現できます。

最新のFieryサーバーでは、グレースケールモードでもコンポジットオーバープリントが適用できるようになりました。



コンポジットオーバープリントは、プリントオプション設定またはジョブのプロパティでオン/オフを切り替えて利用します。



▲コンポジットオーバープリント：オフ



▲コンポジットオーバープリント：オン

Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition ①

印刷ミスを防ぐデータチェック機能

印刷ミスは無駄なコストや時間の原因になるため、早めにトラブルを解決しておきたいものです。Fiery Graphic Arts Package, Premium Edition には、ヘアライン、オーバープリントといった印刷トラブルの原因になる要素を検出する「プリフライト」、カラースペースを視覚的に確認できる「Post-flight」といったデータチェック機能を搭載。これらの機能を利用することで、印刷データの信頼性を高めることができます。

印刷前にデータを チェックできるプリフライト

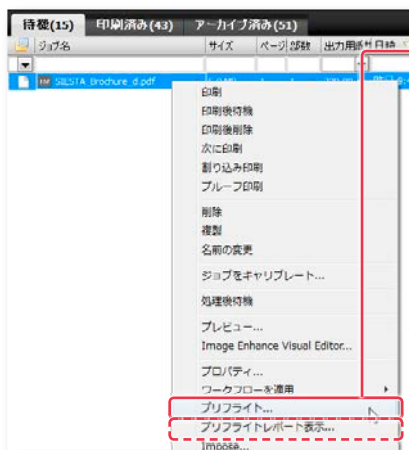
「プリフライト」を実行すると、印刷時にエラーが発生しやすい項目をチェックし、あらかじめ定義した通知方法でエラー内容を表示します。チェック内容はフォントやスポットカラー、低解像度イメージ、ヘアラインの幅やオーバープリントの有無など合計6種類です。

プリフライト設定は編集できるので、印刷方法や納品形態などに合わせて定義しておくとい良いでしょう。オフセット印刷用データだけではなく、プロダクションプリントでも便利な機能です。

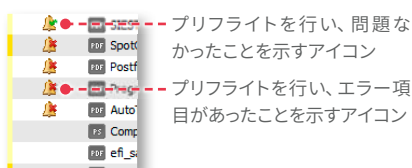
プリフライトのチェック内容

チェック項目	チェック内容の観点	通知レベル
フォント	Fiery サーバーに存在しない場合、およびフォント置換される場合	重大／警告
スポットカラー	Fiery サーバーに存在しない場合	重大／警告
画像解像度	指定した dpi 未満の解像度の場合 (150、200、300dpi のいずれかを指定可能)	重大／警告
バリアブルデータ 印刷リソース	リソースが Fiery サーバーに存在しない場合 (リソースごとにプリフライト可能)	重大／警告
ヘアライン	ライン幅が指定ポイント未満の場合	重大／警告
オーバープリント	オーバープリントが検出された場合	重大／警告

対応ファイルフォーマット：PostScript、PDF、EPS、PPML、VPS



待機キューにあるスプール済み待機ジョブを選択し、アクションメニューから「プリフライト」を実行します。[プリフライトレポート表示]を実行すると、以前プリフライトを行った結果が表示されます。



ジョブリスト欄にプリフライトの実行結果を示すことができます。

フォント、スポットカラー、低解像度イメージなどプリフライトしたい項目それぞれに対して、エラー検出のレベル(重大／警告)を設定できます。設定した内容は保存して再利用が可能です。

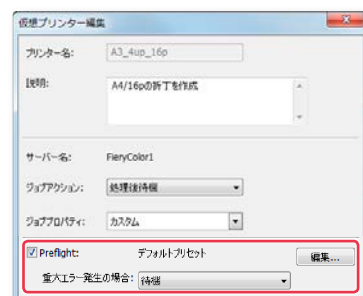
プリフライト結果はレポートを表示する方法に加え、PDFとして保存したり、印刷することができます。



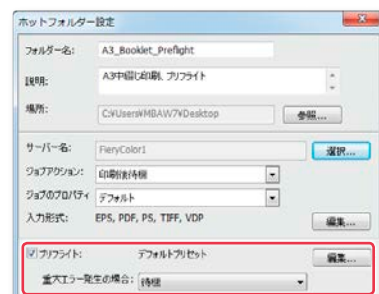
自動プリフライト

プリフライト機能は仮想プリンターや Hot Folders と組み合わせて利用できます。

仮想プリンター



Hot Folders



印刷ジョブのカラースペースを 色分けして印刷できる「Postflight」

「Postflight」は、印刷ジョブに含まれるカラースペースをチェックすることができます。データに含まれたカラースペース (CMYK、RGB、スポットカラー) をシアン、オレンジ、黄色の3色に色分けして印刷するため、スポットカラーやRGBオブジェクトが一目瞭然。同時に印刷できるPostflightレポートでは、印刷時のカラー設定、CMYK (RGB) プロファイルやシミュレーション方法などの情報を確認できます。



▼Postflight 前の元データ



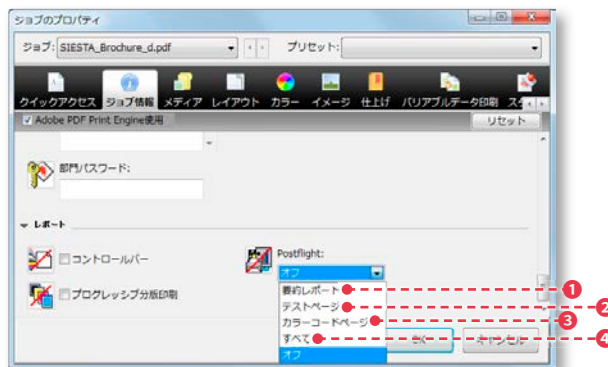
Postflight で表示される
色とデータの種類の

CMYK カラー	シアン
RGB カラー	オレンジ
スポットカラー	黄色

スポットカラー



RGB 画像



②「テストページ」を実行
(A3サイズ用紙に印刷されます)



①「要約レポート」を実行

④「すべて」を実行
「要約レポート」、「テストページ」、
「カラーコードページ」を一度に
印刷します。

上記のようにジョブのカラースペースだけを確認する際は、
③「カラーコードページ」を選択します。

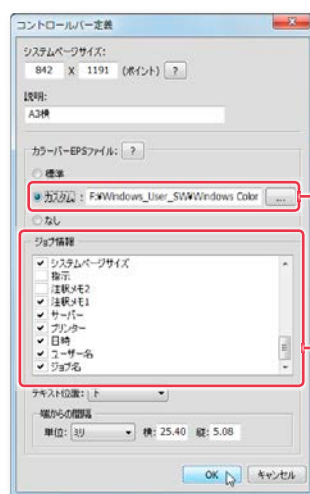
カラーバーを印刷できる「コントロールバー」

プリンタで色校正を行う際にカラーパッチやジョブ情報 (印刷日時やカラー設定情報など) があると、エンジンの状態を把握しやすくなります。「コントロールバー」は、印刷時にこれらの情報をプリントする機能です。カラーバーには Ugra/Fogra Media Wedge CMYK V2.2 や Ugra/Fogra Media Wedge CMYK V3.0a を用意しています (ユーザーソフトウェア DVD に収録)。また、任意の EPS ファイルをコントロールバーとして利用することも可能です。



カラーバー、ジョブ
情報の位置は変更
できます。

「ジョブ情報」は、ユーザー名やジョブ名のほか、印刷時のカラー設定なども印字できます。



カスタムの
バーを登録
します。

「ジョブ情報」欄で、印
字情報を選
択します。

「カラーバー EPS ファイル」欄にある「カスタム」で EPS
ファイルを読み込むと、オリジナルのカラーバーを利用
できます。「コントロールバー」のオン/オフは、プ
リントドライバーで設定します。

高度なプレビュー機能と分版印刷

RIP済みジョブの詳細プレビュー表示が行える「Image Viewer」は、印刷直前のカラー修正も可能。プログレッシブはCMYK各版を分版して印刷。さらに、任意の色を組み合わせることも可能です。カスタマイズ可能な自動トラッピング機能を活用すれば、版ズレによる白抜けを最小限に抑えられます。

プレビューしながらカラー調整が可能な「ImageViewer 2.0」

思い通りの色調でプリントされなかった場合、プロファイルの変更やプロファイル編集、もしくはデータ自体を作り直す作業が必要になります。いずれにしても時間がかかり、テストプリントのコストも軽視できません。「ImageViewer」は、プレビューを見ながらRIP済みジョブの最終結果を確認し、カラーを編集するアプリケーションです。

RIP済みジョブに対してプレビューを最大3,200%まで拡大できるので、最終画像を隅々まで確認可能。そして、カラーホイールやトーンカーブを使った色調補正が行え、編集した結果は再RIPせず高速に印刷できます。



ImageViewer 2.0

待機キューにあるRIP済みジョブを選択し、右クリックまたはアクションメニューから実行します。「ImageViewer」は単独のアプリケーションです。

複数ページの場合、全ページのサムネイルを表示し、選択したページの色調正が行えます。

「カラー調整」機能は、ブラック、明るさ、彩度、色相の4点以外に、タブを切り替えてCMYKのトーンカーブ調整が行えます。調整値は保存し、別のジョブに適用できます。

ImageViewerで編集した内容は、閲覧専用のPDFファイルとして保存できます。保存時には、画像解像度を選択することも可能です。

プレビューは最大3,200%まで拡大できます。複数ページの表示も可能です。

画面上でマウスカーソルをあてた箇所の数値を表示します。

分版した状態がシミュレートできる「プログレッシブ」

FieryサーバーでRIP処理を行い、CMYKを各版ごとに印刷できるのが「プログレッシブ」機能です。
CMYK各色で印刷する以外に、各版を組み合わせることもでき、色の付いた状態で仕上がりを確認できます。



プログレッシブの設定は、デバイスセンターで行います。使用する／しないはプリンタードライバーで設定します。



カスタマイズ可能な「自動トラッピング」

色と色の境目に紙白が見える色ズレを最小限に抑えるのがトラッピングです。Fiery Graphic Arts Package, Premium Editionに搭載された「カスタマイズ可能な自動トラッピング」では、トラッピング幅や各色に対するカラーリダクション、トラッピングセル形状、トラッピングの方法といった細かな設定が行えます。トラッピング処理はすべてFieryサーバーで行われ、クライアントPCに負担はかかりません。アプリケーションの機能を問わず、トラッピング処理を適用できます。



「デフォルトトラッピング設定を使用」にチェックを入れると、システムの自動トラッピングのデフォルト値が、オフからオンに切り替わります。新たに印刷したジョブ、インポートしたジョブの自動トラッピングがオンに設定されます。

▼トラッピングの種類



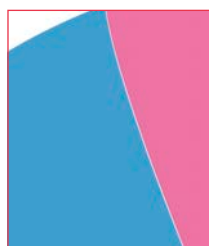
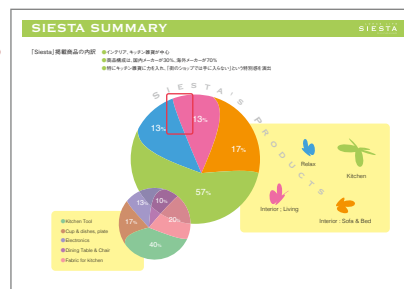
スプレッドトラッピング

明るい色面を背景の暗い色面に広げ、白地が出ることを防ぎます。

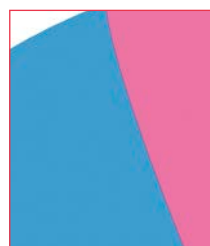


チョークトラッピング

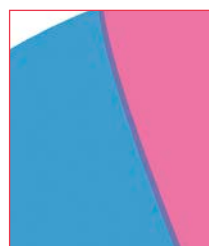
暗い色面の内側に、背景の明るい色面を広げて白地が出ることを防ぎます。



▲自動トラッピング: オフ



▲自動トラッピング: オン



▲自動トラッピング: オン (8ピクセル)

ハーフトーン印刷と2色印刷

新聞印刷で使われる用紙は白色点が異なるため、プルーフを目的としたシミュレーションが難しいものです。

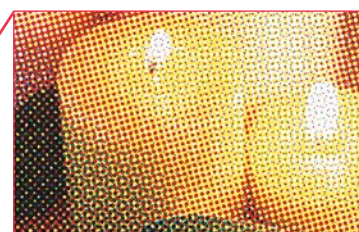
Fiery Graphic Arts Package, Premium Editionでは、標準機能のハーフトーンシミュレーションや用紙シミュレーション機能に加えて「白色点の編集」機能を搭載。微妙に色の付いた用紙を利用しても、納得できる紙白を再現できます。

線数と網点形状をカスタマイズできる「ハーフトーンシミュレーション」

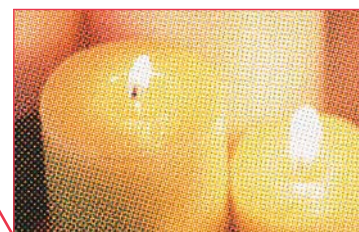
Fiery Graphic Arts Package, Premium Editionのハーフトーンシミュレーション機能に用意された「ユーザー定義スクリーン機能」では、CMYK各版の線数と網点角度を個別に定義できます。標準機能である「新聞」およびCMYK版で任意の同じ数値を適用できる「アプリケーション定義」と合わせて、目的に合った方法を選択できます。



標準機能には新聞シミュレーション用の「新聞」、Fiery Command WorkStationのデバイスセンターで定義された「スクリーン1」、「スクリーン2」、「スクリーン3」、アプリケーション上で設定したハーフトーンスクリーン設定を利用して印刷する「アプリケーション定義」の3種類の設定が用意されています。



▲ハーフトーンスクリーン：新聞

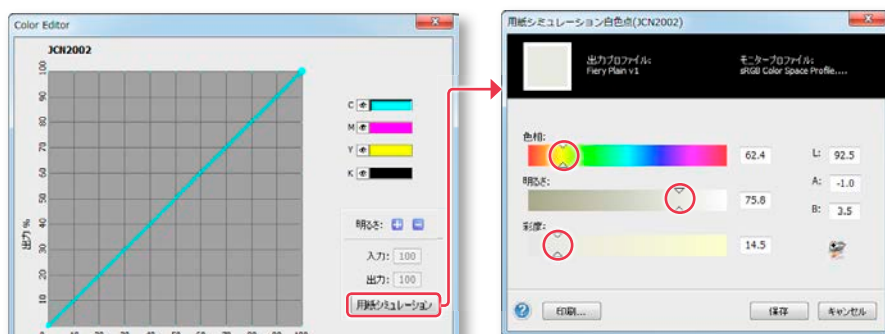


▲ハーフトーンスクリーン：マゼンタ版のみ200線、シアン、イエロー、ブラック各版は105線でRIP

白色点を編集できる「用紙シミュレーション」

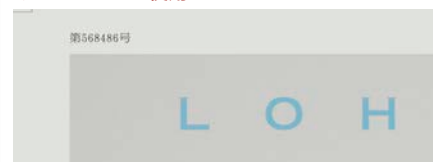
これまでの「用紙シミュレーション」機能を強化し、CMYKシミュレーションプロファイルの白色点を編集して、イメージ通りの紙白を再現するのが「用紙シミュレーション白色点」です。

白色点の編集は、プレビューを見ながら、色相、明度、彩度の3点で行えます（表示される編集結果はモニター用プロファイルの精度に依存します）。編集した結果は新たなCMYKシミュレーションプロファイルとして保存できるので、プロファイルを適用しただけではイメージ通りの白色点にならない用紙のために作っておくと便利です。

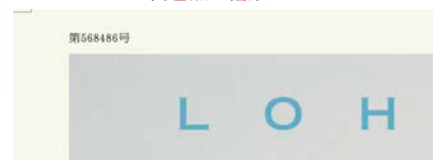


白色点を編集するCMYKソースプロファイルを選択し、「用紙シミュレーション」ボタンをクリックすると、用紙シミュレーションの白色点が編集できます。

▼JCN2002を使用



▼JCN2002の白色点を編集



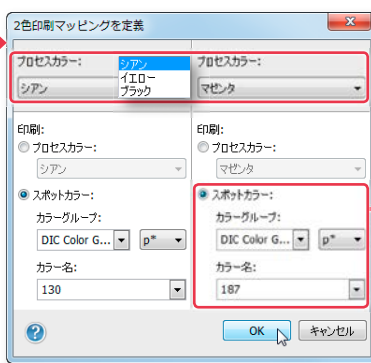
2色印刷をシミュレートできる「2色印刷マッピング」

2色印刷でスポットカラーを利用する場合、アプリケーション上ではプロセスカラーを指定してデータを作成します。これは、スポットカラーを指定するとブレンド機能やグラデーションの途中がCMYK値に変換され、結果として2色印刷にならないからです。そこでカンパ印刷では、最終イメージに合わせるために似た色を使ったデータを作成することがあります。

「2色印刷マッピング」を用いると、DTPアプリケーション上で指定したプロセスカラーを定義したスポットカラーに置き換えて印刷します。Adobe Illustratorのブレンド機能やグラデーションもスポットカラーで再現できるため、カンパ用データの作成は必要ありません。正確な2色印刷のシミュレートが可能です。

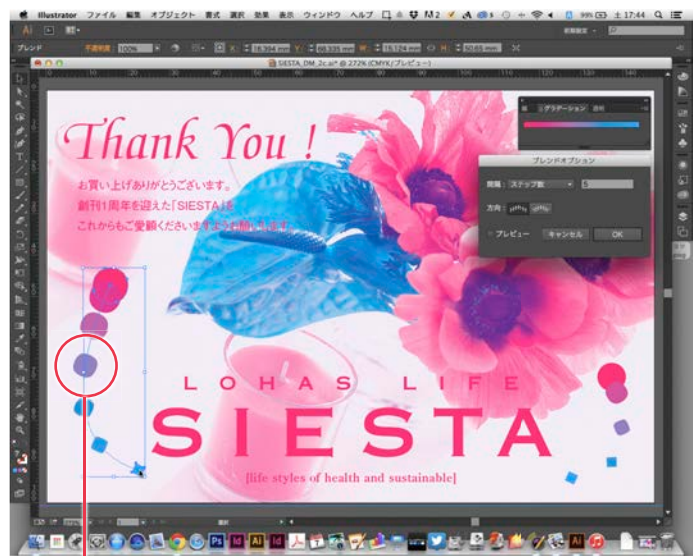


2色印刷マッピングの定義画面



「2色印刷マッピング」は、デバイスセンターで作成します。

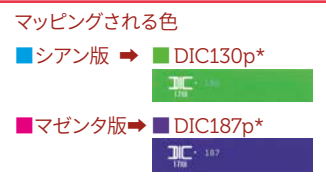
シアン×マゼンタなどのプロセスカラーと対になるスポットカラーを「2色印刷マッピング」で定義します。



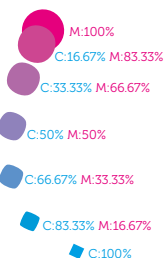
Adobe Illustrator® CC 2014 Ai



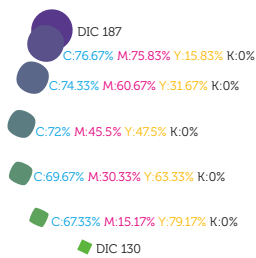
定義された2色印刷マッピングを利用する場合は、プリンタードライバーの「カラー」にある「2色印刷マッピング」にチェックを入れます。



▼マゼンタとシアンでブレンドを作成した場合



▼DIC187とDIC130でブレンドを作成した場合



スポットカラーを使用してブレンドやグラデーションを作成すると、左図のように途中のオブジェクトがCMYK値に変換されてしまいます。



2色印刷シミュレーション：オン

テンプレートで簡単に面付け Fiery Impose

Fiery ImposeはFieryサーバーにスプールされたジョブを面付けして、中とじ印刷や名刺印刷などを行えるようにするCommand WorkStation上で動作するソフトウェアです。
用意されたテンプレートを使い、誰でも簡単に面付け作業を行うことができます。

ユーザーインターフェイスを改良してより使いやすくなった「Fiery Impose」

処理前のジョブに対して面付けを行うFiery Impose。設定画面で変更した内容は、すぐに編集中のプレビューで結果を確認。
両面印刷時には表裏を左右に表示し、製本印刷とギャングアップ印刷に対応する面付けが簡単に行えます。
そして、中綴じ印刷時に絵柄がズれる現象を回避する「クリープ調整」も高い精度で適用し、ノド部分の間隔を「0mm」に設定することも可能。中とじや無線とじ、巻き三つ折などのテンプレートもあらかじめ用意し、使いやすさにこだわって改良を施しました。

シートサイズなど、ページ情報を表示する測定ツール。

Fiery Impose
メイン画面

プレビューモードでは、ページ内容の絵柄を確認しながら面付け作業が行えます。

「ページ表示」エリア
ジョブに含まれるページのサムネイルを表示します。

「シート表示」エリア
編集中のジョブをシート表示します。

「設定」エリア
面付け設定「ブックレット」「ギャングアップ」「普通」を選ぶと、画面内の設定が動的に切り替わります。

テンプレート
普通
デフォルトテンプレート
1-up フルアード
ブックレット
2-up 無線とじ
2-up 中とじ

定義済みテンプレートには中綴じ、無線綴じなど8種類の設定が用意されています。

「クリープ」では、中綴じ印刷時に紙の厚さで絵柄がズれる現象を回避します。調整は内側／外側の2方向から、用紙の種類も選択できます。

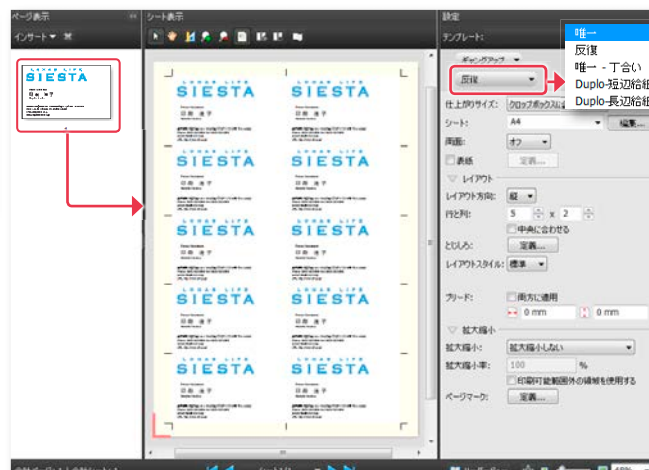


面付けデータの保存

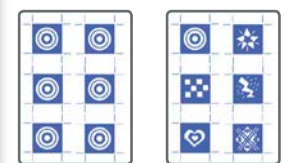


Fiery Imposeで面付けしたジョブは、そのままFieryサーバーに保存したり、PDFファイルとしてクライアントPCに書き出すことができます。

ギャングアップを使用した面付け



「ギャングアップ」は、ハガキや名刺など小さなサイズのジョブを繰り返し配置したり(反復)、1枚の用紙に複数のジョブを割り付ける(唯一)場合に使用します。バリエーションも面付けできるので、ダイレクトメール印刷にも活用できます。



反復 唯一
1枚の用紙に複数のジョブを配置することで、用紙の消費量も抑えることができます。

プレビューを見ながら印刷準備 Fiery Compose

Fiery Composeでは、スプール済み待機ジョブに対して章分けや章ごとの仕上げ、用紙の指定などが行えます。プリンタードライバーに搭載される「用紙種類の混合」とは異なり、プレビューを見ながら操作できるため、間違いを起こさずに、簡単に複雑な用紙設定が行えます。



プレビューしながら章分け、ページ単位で用紙を指定できる「Fiery Compose」

「用紙種類の混合」機能をさらに拡張し、高度な編集機能までを備えたのが「Fiery Compose」です。プレビュー画面でシート内容を見ながら用紙を決定したり、任意の場所に合紙を入れるなど複雑なページ編集作業も簡単。

仕上げセットや章分けといった表示方法で作業結果を確認でき、Fiery サーバーやクライアントPCからジョブを追加することも可能です。プリンタードライバーやジョブのプロパティで「ステープル」や「パンチ」、「折り」などのフィニッシャー設定を行い、Fiery Composeで仕上げることで、付加価値の高い印刷物を仕上げるすることができます。

Fiery Compose メイン画面



Fiery ComposeからAdobe Acrobatを起動し、Pitstopと組み合わせることでPDFの編集・修正が行えます。変更を加えた後で、Fiery Composeで作業を続けることも可能です。

「インサート」機能



ブランクページ挿入



任意の場所に1ページの白紙を挿入します。

ブランクシート挿入

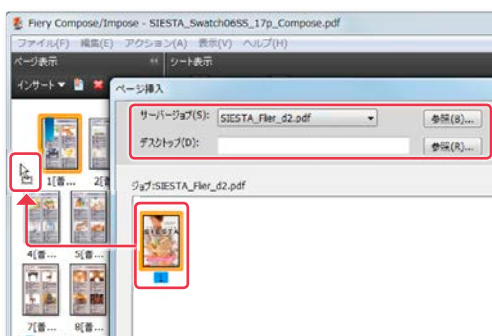


1枚(シート)分の白紙を挿入します。

タブ挿入



タブ紙を挿入します。



プロダクションプリントに付加価値を与える バリエブル印刷機能

プロダクションプリントならではの付加価値向上には、バリエブル印刷が欠かせません。Fiery サーバーは、いち早くバリエブル印刷に対応し、業界を牽引してきました。簡単な宛名印刷から複雑な画像とテキストを組み合わせたバリエブル印刷まで、プロダクションプリントのビジネスを拓ける機能を提供します。

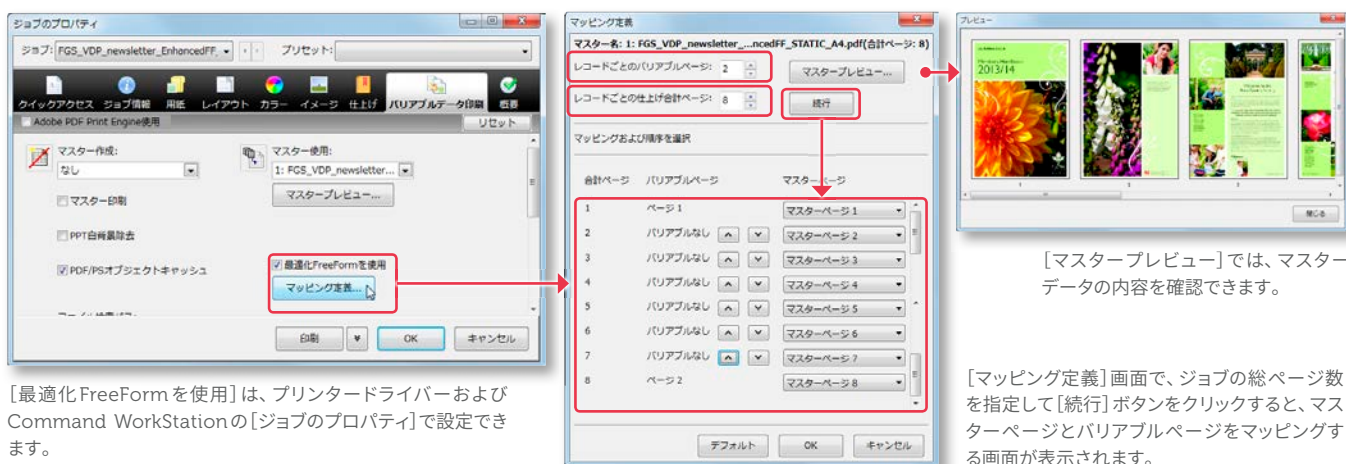


Fiery サーバーが実現する高度なバリエブル印刷

Fiery サーバーでは、「FreeForm1/2.1」、「PPMLバージョン3.0」、「Creo VPS1.5」、「PDF/VT-1」、「PDF/VT-2」など最新のバリエブル印刷言語をサポートしており、専門的なバリエブル印刷用ソフトウェアからの印刷にも対応します。

そして、最新の「FreeForm」では、複数のマスターページに対応した「最適化された FreeForm」が搭載されています。「最適化された FreeForm」では、プリンタードライバーから複数のマスターデータとバリエブルデータを指定できるので、専用のバリエブル印刷ソフトウェアを使わずに、カスタマイズ性の高いレイアウトの印刷が可能です。

「最適化された FreeForm」の設定



「最適化 FreeForm を使用」は、プリンタードライバーおよび Command WorkStation の [ジョブのプロパティ] で設定できます。

「マスタープレビュー」では、マスターデータの内容を確認できます。

「マッピング定義」画面で、ジョブの総ページ数を指定して [続行] ボタンをクリックすると、マスターページとバリエブルページをマッピングする画面が表示されます。今回はマスターデータが 8 ページなので、[レコードごとの仕上げ合計ページ] も [8] と設定し、1 ページ目と 8 ページ目にバリエブルデータを組み合わせて印刷しました。

特定のマスターページにバリエブルページを組み合わせた例



バリエブルデータの管理



Command WorkStation のデバイスセンターにある [リソース] タブで、マスターデータを管理できます。

Fiery Color Profiler Suite

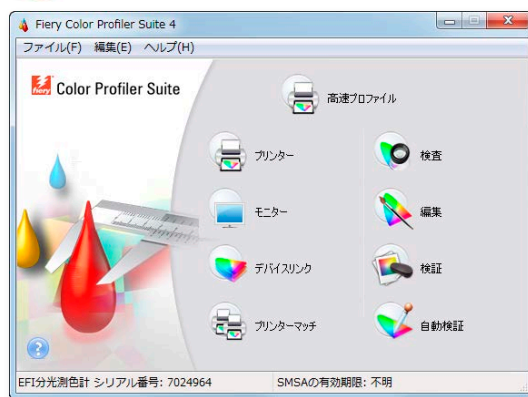
「Fiery Color Profiler Suite」は、分光測色計「ES-2000」を同梱し、ICCプロファイルの作成、編集、品質管理機能を網羅したカラーマネージメントツールです。Fieryサーバーと組み合わせることで、デジタルプリンターの能力を最大限に引き出し、初心者から熟練者まで納得できる高度なカラーマネージメント環境を提供します。

測色から品質管理までを ひとつのパッケージでサポート

Fiery Color Profiler Suiteを使用すると、ICC標準に完全に準拠したカラープロファイルの作成、プロファイルの評価、編集、テストを実行できます。プロファイル作成は、プリンター、オフセット印刷機、モニターと、カラー印刷・表示を行うすべてのデバイスに対応。

そして、「オフセット印刷のプロファイルとFieryの出力プロファイル」など、2つ以上のICCプロファイルを組み合わせたデバイスリンクプロファイルも作成できます。

EFI Color Profiler Suiteの メインメニュー



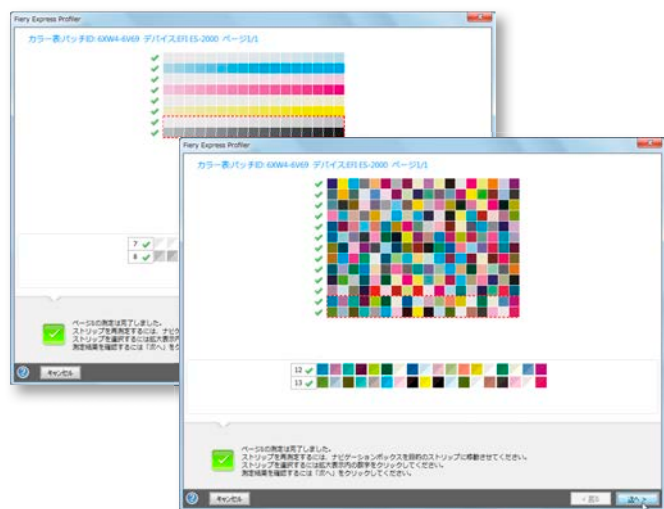
モニタープロファイルの作成機能には、ウィザード方式を採用。作成したモニタープロファイルを使うと、ImageViewerやスポットカラーの編集での色の信頼性を高めます。

Fieryサーバーと連携した高速プロファイル作成

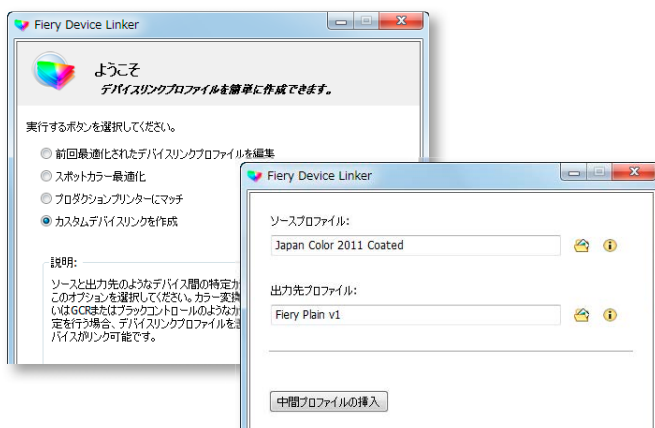
プロダクションプリントでは、クライアントの要望に応じて多様な用紙を使います。

最新のFiery Color Profilerに搭載された高速プロファイル作成機能を使用すると、Fieryサーバーに接続されたデジタルプリンターのキャリブレーション設定および、出力プロファイルを一度の操作で作成できます。

また、デバイスリンクプロファイル作成機能も搭載。オフセット印刷のプロファイルとFieryサーバーの出力プロファイルを組合せ、墨版を保持したダイレクトなカラーマッチング処理を行うことも可能です。



「高速プロファイル」を実行すると、画面の指示に従うだけで、キャリブレーションからプロファイル作成・測定を一回の操作で行え、出力プロファイル作成が手軽に行えます。



デバイスリンクプロファイルの作成

オフセット印刷のプロファイルとFieryの出力プロファイルなど、2つ以上のICCプロファイルを組み合わせたプロファイルを作成します。デバイスリンクプロファイルでは、CMYK→CMYK変換時に墨版保持が可能。EFI Device Linkerでは、変換設定としてレンダリング方法に加え、黒点の補正やグレー保持などの機能を搭載しています。

EFI fuels success.

EFI™ (www.efi.com) はジョブ入稿からプロダクション出力まで、総合的なデジタルプリント関連製品を提供する世界的なリーディングカンパニーです。

1991年に業界初のカラーサーバー機であるEFI Fieryサーバーを発表してから、20年以上に渡ってカラー管理及びプロダクションプリントに関連した製品を開発・提供し続けており、世界中の大手企業や印刷会社、広告代理店、デザインオフィスにて累計170万台以上のEFI Fieryサーバーをご愛用頂いています。

お客様のビジネス発展に必要なすべてがEFIにあります。

FieryサーバーからVUTEK®スーパーワイドフォーマットインクジェットプリンター、Web入稿ソフトウェアDigital StoreFront、企業内印刷、印刷工程自動化ソリューション、プリントMISまで。EFIはデジタルプリンティングに関するトータルソリューションを備えています。

www.efi.co.jp

www.efi.com

本ガイドでは一般的な外付け及び内蔵型Fieryサーバーの機能について記述しておりますが、EFIが提供するFieryサーバーにはさまざまな製品構成があり、特定のプリンタとFieryサーバーの製品構成によってはご利用頂けない場合があります。詳しくはFiery製品販売店にお問い合わせください。



APPSロゴ、AutoCal、Auto-Count、Balance、Best、Bestロゴ、BESTColor、BioVu、BioWare、ColorPASS、Colorproof、ColorWise、Command WorkStation、CopyNet、Cretachrom、Cretaprint、Cretaprintロゴ、Cretaprinter、Cretaroller、DockNet、Digital StoreFront、DocBuilder、DocBuilder Pro、DocStream、DSFdesign Studio、Dynamic Wedge、EDOX、EFI、EFIロゴ、Electronics For Imaging、Entrac、EPCount、EPPhoto、EPRegister、EPStatus、Estimate、ExpressPay、Fabriva、Fast-4、Fiery、Fieryロゴ、Fiery Driven、Fiery Drivenロゴ、Fiery JobFlow、Fiery JobMaster、Fiery Link、Fiery Prints、Fiery Printsロゴ、Fiery Spark、FreeForm、Hagen、Intensity、Inkware、Jetrion、Jetrionロゴ、LapNet、Logic、MiniNet、Monarch、MicroPress、OneFlow、Pace、PhotoXposure、Printcafe、PressVu、PrinterSite、PrintFlow、PrintMe、PrintMeロゴ、PrintSmith、PrintSmith Site、Printstream、Print to Win、Prograph、PSI、PSI Flexo、Radius、Rastek、Rastekロゴ、RemoteProof、RIPChips、RIP-While-Print、Screenproof、SendMe、Sincolor、Splash、Spon-On、TrackNet、UltraPress、UltraTex、UltraVu、UV Series 50、VisualCal、VUTEK、VUTEKロゴ及びWebToolsは、米国及び他の国における Electronics for Imaging, Inc. またはその子会社の商標です